

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2018 年 10 月

「恐れるな、小さい群れよ」「世界の出来事の土台となる預言（1）」「永遠の福音と新しい契約」「なすかご入り豆腐団子」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

世界の出来事の土台となる預言 (I)

4

聖書の教え

朝のマナ

恐れるな、小さい群れよ

9

Fear Not, Little Flock

現代の真理

「永遠の福音と新しい契約」

40

力を得るための食事

なすかご入り豆腐団子

46

お話コーナー

「過越(すぎこし)の夕食にて(III)」

48

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465 FAX: 0494-40-1045

【高知集会所】

〒780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2
電話：088-831-9535

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

アクセス www.4angels.jp

メール support@4angels.jp

発行日 2018 年 8 月 5 日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Getty images on Front page, Sermon View
on page 40

わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう

ペテロは、「あなたこそ、生ける神の子キリストです」と断言した。… ペテロは十二人の信仰を表明していた。…

イエスはペテロに答えて言われた、「バルヨナ・シモン、あなたはさいわいである。あなたにこの事をあらわしたのは、血肉ではなく、天にいますわたしの父である」(マタイ 16:17)。

ペテロが告白した真理は、信者の信仰の土台である。これこそキリストご自身が永遠のいのちであると宣言されたものである。… ペテロがキリストの栄光をみとめたことは、彼が「神に教えられ」た証拠である(ヨハネ 6:45)。ああ実に「バルヨナシモン、あなたはさいわいである。あなたにこの事をあらわしたのは、血肉ではな」かった。イエスはつづけて言われた、「そこで、わたしもあなたに言う。あなたはペテロである。そして、わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう。黄泉(よみ)の力もそれに打ち勝つことはない」(マタイ 16:18)。… 教会は、よみの門が打ち勝つことのできないおかたの上に建てられた。…

「すでにすえられている土台以外のものをすえることは、だれにもできない。そして、この土台はイエス・キリストである」(コリント第一 3:11)。「わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう」とイエスは言われた(マタイ 16:18)。神と全天使たちの前で、また目に見えないよみの軍勢の前で、キリストは生ける岩の上にご自分の教会を建てられた。その岩はキリストご自身一われわれのために裂かれ傷つけられたキリストご自身のからだであった。この土台の上に建てられた教会に、よみの門は打ち勝つことができない。

キリストがこのことばを語られたとき、教会は、何と弱々しくみえたことだろう。信者はほんのひとにぎりしかなく、この人々に向かって悪鬼と悪人の全勢力が向けられるのであった。それでもキリストに従う者たちは… 力の岩なるキリストの上に建てられているので、彼らを打ち倒すことはできなかった。

六千年の間、信仰はキリストの上に築かれてきた。六千年の間、サタンの怒りという洪水と嵐がわれらの救いの岩なるキリストを襲った。だがそれは動かされることなく立っている。…

教会は、キリストを土台として、その上に建てられている。教会は、キリストをかしらとして、キリストに従うのである。… 有限な人間の指導にたよることはできない。信仰の岩は、教会内におけるキリストの生きた存在である。(各時代の希望中巻 177-183)

第7課 世界の出来事の土台となる預言(Ⅰ)

この世の偉大な帝国

将来、何が起こるかという問題はいつも、この世の指導者たちにとって重大な関心事であり、彼らにとって研究課題でした。誇り高いこの世の支配者たちは、自分たちの王国をこの世において極限まで拡大させ、またそれらの王国のために安全を永遠のものにしようとしていました。そのために彼らはすべての力を注ぎ、要塞を築き、また大規模な軍隊をおこしました。しかし、人間的な確率で言えば、彼らがその目的を達成したかのように見えた場合においても、その後、その支配者の王国はしばしば他により覆され、取って代わられたのでした。将来をにぎっているのは何か。偉大な王国の隆盛と滅亡は偶然により生じるのでしょうか？それともそれらはすべて偉大な計画の一部を構成しているのでしょうか？そうであれば、その結末は何でしょうか？先をご覧ください。神の御目は、将来の出来事を明らかにされます。歴史は、その確かさを証明しています。

困惑した世界の支配者

偉大で野心的な古代バビロン王ネブカデネザルは、将来、何が起こるのかを知りたいと熱望していました。ある夜、彼は驚くべき夢を見ました。彼の心に深い印象を残しました。しかし、彼は起きた後、その夢をどうしても思い出すことができませんでした。彼の博士、魔術師、占星家、占い師たちは、その夢の内容を告げることができませんでした。彼らは超自然的な力を有していると主張していたため、王は彼らが夢を告げることができないことを怒り、彼らを死刑に処するよう命じました。

バビロンの王室における賢人の中には、ダニエルという名の青年と彼の友人であるハナニヤ、ミシャエル、アザリヤがいました。この4人の若者たちは、王宮で教育を受けるために、ユダヤの捕囚の中から選ばれたのでした。ダニエルは死刑令とその理由を聞いたとき、彼と友人たちが神に夢とその解き明かしを自分に示して下さるよう祈ることができるように、猶予期間を求めて王に嘆願しました。

その願いは受け入れられ、4人の青年たちは、彼らに答えることがおできになる神の能力を信じる強い信仰をもって、共に祈りました。「義人の祈りは大いに力があり、効果のあるものである。」(ヤコブ 5:16)。神から直ちに回答がなされたのも、驚くべきことではありません。ダニエル 2:1-30 をお読みください。

夢が明らかにされる

ダニエルは、ネブカデネザル王が思い出すことができなかった夢の内容を告げました。“王よ、あなたは一つの大きな像が、あなたの前に立っているのを見られました。その像は大きく、非常に光り輝いて、恐ろしい外観をもっていました。その像の頭は純金、胸と両腕とは銀、腹と、ももとは青銅、すねは鉄、足の一部は鉄、一部は粘土です。あなたが見ておられたとき、一つの石が人手によらずに切り出されて、その像の鉄と粘土との足を撃ち、これを砕きました。こうして鉄と、粘土と、青銅と、銀と、金とはみな共に砕けて、夏の打ち場のもみがらのようになり、風に吹き払われて、あとかたもなくなりました。ところがその像を撃った石は、大きな山となって全地に満ちました”(ダニエル 2:31-35)。

ネブカデネザル王は、ダニエルが話した一つ一つを注意深く聞いていましたが、それこそまさに自分を非常に悩ませていた夢であることを認識しました。こうして、彼の思いは、解き明かしを好意的に受け入れる用意ができたのでした。

ダニエルは次のように宣言しました。「秘密をあらわすひとりの神が天におられます。彼は後の日に起るべき事を、ネブカデネザル王に知らされたのです。…これがその夢です。今わたしたちはその解き明かしを、王の前に申しあげましょう」(ダニエル 2:28, 36)。

解き明かされた夢

1. 金の頭

ダニエルは、その解き明かしを続けました。「王よ、あなたは諸王の王であって、天の神はあなたに国と力と勢いと栄えとを賜い、また人の子ら、野の獣、空の鳥はどこにいるものでも、皆これをあなたの手に与えて、ことごとく治めさせられました。あなたはあの金の頭です」(ダニエル 2:37, 38)。

バビロンは、黄金の時代における黄金の王国でした。バビロンの町は、「黄金の町」として言及されています(イザヤ 14:4 英語訳)。バビロンは栄華を極め、その後の歴史において、バビロンに匹敵する町はひとつもありませんでした。バ

ビロンの周囲の長さは 60 マイルあり、その町の扉は強固な青銅で作られており、その城壁の高さは 120 メートル、厚さは 30 メートルありました。

その壮大な空中庭園、その神殿や宮殿は、「王国の栄光、卓越したカルデアの美」と呼ばれていました。その前にも後にも、バビロンのような町はなく、またバビロンに並ぶ町はありませんでした。その金の頭は、地上における最も偉大な都バビロンを象徴するのにふさわしいものでした。「この世においてバビロンのように長期間にわたり多大な権力、富、文化を有していた首都は、他に存在しなかった。」(History of Babylonia and Assyria, Volume 1, page 397)

最も偉大な君主であるネブカデネザル王の死後、バビロニアは衰退し、最終的に自分より弱い統治者たちの下に消滅しました。ネブカデネザル王の孫であるベルシャザル王の時代に、ペルシャのクロス王がバビロンに侵入しました。ベルシャザル王は宴会をひらき、全市をあげて酔っ払いのお祭り騒ぎに加わっていました。その宴会が行なわれている間に、クロス王は、その町の中を流れるユーフラテス川の流れの方向を一時的に迂回させ、自分の兵士たちを引き連れて川底を進軍し、川門の下をくぐって酔った都市へと進み、紀元前 538 年、バビロニア人の意表を突いて征服したのでした。ベルシャザル王の大宴会は、ダニエル書の第 5 章の中で述べられていますが、その場面は次のような簡単な言葉で閉じられています。「カルデヤびとの王ベルシャザルは、その夜のうちに殺され、メデアびとダリヨスが、その国を受けた。」

2. 銀の胸と両腕

「あなたの後にあなたに劣る一つの国が起ります。…」(ダニエル 2:39)。

メデとペルシャがバビロンに続きました。しかし、どのような意味において、メド・ペルシャは、先の王国より劣っているのでしょうか。力においてではありません。なぜなら、バビロンを征服した者だからです。また、領土の広さにおいてもではありません。なぜなら、メド・ペルシャは、かつて存在した王国の中で、最も広い帝国だったからです。しかし、富と壮麗さにおいて劣っていました。

クロス王の統治下において、ユダヤ人の 70 年間の流浪は終了し、彼らはエルサレムに戻って自分たちの宮を建てることを許されました。

それから 200 年後、ギリシャが次期世界帝国として台頭し、名をあげたのでした。

恐れるな、小さい群れよ

Fear Not, Little Flock



「世界の人口に比べれば、神の民は、常にそうであつたように、ごく小さな群れであろう。しかし彼らが、みことばに示されている真理に立つならば、神は彼らの逃れ場となつて下さる。彼らは全能の神の広い盾のもとに立つのである。」(患難から栄光へ下巻 296)

10 月

聖霊によって導かれる

「御霊によって歩きなさい。そうすれば、決して肉の欲を満たすことはない。」(ガラテヤ 5:16)

偽りの教師たちは、ガラテヤの人々に、キリストの福音に反する教理をもたらした。パウロはこれらの誤りを暴露し、正そうとつとめた。彼は教会から偽りの教師たちが離れることを大いに望んだが、彼らの感化は信者の多くの者に影響を及ぼしていたので、彼らに対して処置を講じることは危険であるように思われた。教会の霊的な影響力に破滅的ともなりかねない争いと分離を引き起こす危険があった。それゆえに彼は自分の兄弟たちに、愛のうちに互いに助け合うことの重要性を印象づけようと努めた。彼は、同胞に対するわたしたちの義務を示しているすべての律法の要求は、互いへの愛のうちに成就されるのだと宣言した。彼は、もし彼らが憎しみと争いをほしいままにし、党派に分かれ、野獣のように互いに噛みつき、むさぼり食いあっているならば、自らの身に現世の不幸と将来の破滅をまねくと警告した。これらの恐ろしい悪を防ぐには一つの方法しかなかった。それは使徒が彼らに命じているように、「御霊によって歩」くことである(ガラテヤ 5:16)。彼らは絶えざる祈りによって聖霊の導きを求めなければならなかった。そして、それは彼らを愛と一致に導くのであった。

分かれて相争う家は立ち行かない。クリスチャンたちが争うとき、サタンは支配権を握るためにやってくる。なんとたびたび彼は、教会の平安と調和を破壊することにおいて、成功をおさめてきたことであろう。なんと激しい争い、なんという苦々しさ、なんという憎しみが、些細なことで始まったことであろう。不和と争いによって、どれほどの望みが台無しにされ、どれほど多くの家族がばらばらに引き裂かれてきたことであろう。

パウロは、自分の兄弟たちに他の者たちの過ちを正そうとするとき、自分たちが同様に大いなる罪を犯すことがないように注意するよう命じた。彼は憎しみ、競争、激怒、争い、妨害、異端、妬みは、好色、姦淫、泥酔、殺人とまったく同様に肉の働きであり、その罪を犯す者に対しては同じくらい確実に天の門が閉ざされるのだと彼らに警告している。

キリストは「また、わたしを信じるこれらの小さい者のひとりをつまずかせる者は、大きなひきうすを首にかけられて海に投げ込まれた方が、はるかによい」と宣言なさる(マルコ 9:42)。故意の欺き、または間違った模範によってキリストの弟子を誤り導く者はだれでも、大いなる罪を犯すのである。だれでもキリストの弟子を中傷や嘲笑の対象とする者は、イエスを侮辱しているのである。わたしたちの救い主はご自分に従う者たちになされたすべての不正行為に注目なさる。(教会への証 5 巻 343, 344)

あなたのための神のご計画

「ほむべきかな、わたしたちの主イエス・キリストの父なる神。神はキリストにあって、天上で霊のもろもろの祝福をもって、わたしたちを祝福し、みまえにきよく傷のない者となるようにと、天地の造られる前から、キリストにあってわたしたちを選び、わたしたちに、イエス・キリストによって神の子たる身分を授けるようにと、御旨のよしとするところに従い、愛のうちにあらかじめ定めて下さったのである。これは、その愛する御子によって賜わった栄光ある恵みを、わたしたちがほめたたえるためである。」(エペソ 1:3-6)

キリストはどんな人間も、価値も希望もない者として素通りすることなく、助けを必要としているすべての魂に救いの治療を施そうとなさった。このお方はそのおられるところでどこでも、時と状況にかなった教訓を提示された。このお方は最も粗野で見込みのない者に望みをいだかせようと、彼らが欠点もなく罪もない者となり、キリストのような品性を得ることができるという考えを彼らの前に示された。彼らは邪悪な人々の間に住んでいるにもかかわらず、神の子供となり、世において光のように輝くことができるのである。これこそ、あれほど多くの人々がこのお方の仰せになることを喜んで聞いた理由である。その幼少時代より、このお方は他の人々のために働き、世の道徳的暗黒のただ中において光を輝かせたのであった。ご自分の家庭生活の中で重荷を負われたときに、またより公の領域で働かれたときに、このお方は神のご品性が何であるかを人々に示された。このお方は人生の真の利益に関わるすべての事を奨励なさった。しかし、このお方は若者たちが将来はどうなるだろうと夢を見ることを奨励なさらなかった。このお方はご自分のみ言葉と模範によって、将来を決定するのは現在の自分たちの過ごし方次第であることを彼らにお教えになった。わたしたちの運命は、わたしたちの行動方針によって定められる。正しいことを大切にする者、狭い行動範囲にもかかわらず神のご計画を果たす者、正しいことを正しいゆえに行う者は有用性のさらに広い領域を見出すであろう。低い地位において神の聖なる戒めに真実な者は、さらに高い地位において奉仕をするために自分たちをふさわしい者としているのである。主は永遠の見解を与えて彼らを祝福なすり、自分たちの品性を清め、高めるのをお助けになる。彼らはキリストがそうであられたように神の恵みを自覚するのである。(ユース・インストラクター 1896 年 1 月 2 日)

あなたの神の戒めへの従順は、あなたが栄光の相続にあらかじめ定められていることを実証するのである。あなたは神との共労者となるために、キリストと調和して働くために、このお方のくびきを負うために、このお方の重荷を取り上げるために、またこのお方の御足の跡に踏み従うために選ばれたのである。(レヴィ・アード・ヘラド 1897 年 9 月 28 日)

10月3日

感謝によって生かされる

「しかるに、あわれみに富む神は、わたしたちを愛して下さったその大きな愛をもって、罪過によって死んでいたわたしたちを、キリストと共に生かし——あなたがたの救われたのは、恵みによるのである——キリスト・イエスにあって、共によみがえらせ、共に天上で座につかせて下さったのである。」(エペソ 2:4-6)

なんという代価が、わたしたちのために払われたことであろう。十字架とその上に掲げられた犠牲者を見なさい。残酷な釘によって刺し通されたみ手を見なさい。木に大釘でしっかりと固定された御足を見なさい。キリストはご自分のお体のうちに、わたしたちの罪を負われた。その苦しみ、その苦悩はあなたの贖いの代価なのである。……

このお方がわたしたちを愛し、わたしたちのためにご自身を与えられたことを、そしてそれはわたしたちが今度はこのお方に自分たちを捧げるようになるためであったことを、あなたは知らないのだろうか。なぜ、このお方がわたしたちのために死んでその愛がわたしたちに表現されたのと同じくらい確かに、信仰によってこのお方を受け入れたすべての人によってキリストへの愛が表現されないのだろうか。

キリストは、失われた羊を、探し捜しておられるお方として描写されている。わたしたちを囲み、わたしたちを囲いに連れ戻すのはこのお方の愛である。このお方の愛は、わたしたちが天においてこのお方と共に座する特権を与えるのである。……言葉においてだけではなく、わたしたちのいっさい、またわたしたちが持っている物すべてをこのお方に捧げることによって、このお方を讃美しよう。

「わたしの主人にどれだけ負債がありますか」(ルカ 16:5)。これを計算することはできない。あなたが持っているすべてはこのお方のものであるのに、このお方が要求なさるものを差し控えるのだろうか。このお方がそれを求められるとき、あなたは利己的にそれを自分のものとして握りしめるのだろうか。あなたはそれを取っておき、魂の救済以外の目的に用いるのだろうか。何千もの魂が失われるのは、この方法によってである。神の犠牲やわたしたちの世に賜ったその大いなる賜物に対するわたしたちの感謝を、いかに表すことができるであろうか。贈り物と捧げ物をお捧げし、それと共にわたしたちの唇より讃美と感謝をのぼらせること以上によい方法があるであろうか。このお方は大いなる愛をもってわたしたちを愛し、ご自分に引き寄せてくださったのである。

「主よ、わたしたちはあなたから受けて、惜しげなくあなたにささげるのです」と言いながら、嘆願のうちに天を見上げ、自分自身を神に僕として、またあなたが持っているすべての物を差し出しなさい。カルバリーの十字架とあなたのために十字架につけられた無限の神の御子の見えるところに立ち、その比類のない愛、恵みという素晴らしい表れを悟って、あなたの真剣な質問が、「主よ、あなたはわたしに何をおさせになるのですか」となるようにしなさい。このお方はあなたに、「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ」(マルコ 16:15)と仰せになられた。あなたが自分の贈り物と奉仕を通して救われた魂を、神の御国において見る時、あなたはこの働きをする特権があったことを喜ばないだろうか。(教会への証 6 巻 1896 年 1 月 2 日)

わたしたちの思いを清い会話に集中させる

「悪い言葉をいっさい、あなたがたの口から出してはいけない。必要があれば、人の徳を高めるのに役立つような言葉を語って、聞いている者の益になるようにしなさい。神の聖霊を悲しませてはいけない。あなたがたは、あがないの日のために、聖霊の証印を受けたのである。」(エペソ 4:29, 30)

天使たちは、わたしたちを守り保護している。わたしたちは、たびたびつまらぬ会話をしたり、むだ話や冗談を言ったり、また、不注意で愚かな状態に陥ったりして、天使たちを悲しませることがある。……クリスチャンの勇気と原則に従って神に仕えることが、大いに欠けている。わたしたちは、自分を喜ばせ満足させることを求めないで、神に栄誉と栄光を帰し、わたしたちのなすこと言うことがすべて、ただ神の栄光のためでなければならない。もしわたしたちの心が、次の重要な言葉に深い感動をおぼえ、常にそれを心に留めているならば、わたしたちは、そうたやすく誘惑に陥ることはなく、わたしたちの言葉は、少なく、よく選ばれたものとなるであろう。「彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために砕かれたのだ。彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ」「人はその語る無益な言葉に対して、言い開きをしなければならないであろう」「あなたは…わたしを見ていられる」。

わたしたちは、こうした重要な言葉を思い、あわれなわたしたち罪人が、ゆるされてイエスの尊い血によって神に贖われるために、イエスが苦しまれたことを思いおこすときに、わたしたちは、神に強く心を動かされて、わたしたちのためにこのように苦しみを耐え忍ばれたかたのために苦しむことを、熱心に願い求めずにはおられなくなる。もしわたしたちが、このようなことを常に心に留めているならば、自己は、その誇りとともに低められて、その代わりに、他人の譴責にも耐えて、軽々しくいきどおらない、幼児のような単純さが与えられる。わがままな精神は、心を支配しなくなる。

真のキリスト者の喜びと慰めは、天になければならず、また、そうなるのである。来世の力と、天の喜びを味わった人々の心の熱望は、地上のことでは満足しない。このような人々は、ひまな時にも、なすべきことを十分に見いだす。彼らの心は、神にむかって引かれる。宝のあるところには、心もあるのであって、彼らは、自分たちが愛し礼拝する神との、楽しい交わりをもつのである。彼らの楽しみは、彼らの宝、すなわち、聖なる都、新しい地、彼らの永遠の故郷などを瞑想することである。彼らが、このように高く、清く、聖なることを考えているときに、天は、彼らに近づく。そして、彼らは、聖霊の力を感じる。(初代文集 211-213)

愛のうちを歩む

「すべての無慈悲、憤り、怒り、騒ぎ、そしり、また、いっさいの悪意を捨て去りなさい。互に情深く、あわれみ深い者となり、神がキリストにあってあなたがたをゆるして下さったように、あなたがたも互にゆるし合いなさい。こうして、あなたがたは、神に愛されている子供として、神にならう者になりなさい。また愛のうちを歩きなさい。キリストもあなたがたを愛して下さって、わたしたちのために、ご自身を、神へのかんばしいかおりのささげ物、また、いけにえとしてささげられたのである。」(エペソ 4:31-5:2)

神の愛が魂を充滿していなければならない。そうしなければ、義の実は現れない。うぬぼれと誇り、また権威または利益への愛をほしいままにすることは安全ではない。……キリストが心のうちにおられるとき、心は神と人に対する愛によって和らげられ抑えられるので、そこには、いらだち、あら捜し、争いは存在しない。(教会への証 4 巻 610)

種があるのと同様に、収穫もあるのである。もしわたしたちが疑惑、ねたみ、嫉妬、自己愛、思いと感情の恨みを撒くなら、わたしたちは自分の魂に恨みを刈り取るのである。わたしたちが親切、愛、他の人々の感情に対して優しい思いをあらわすなら、わたしたちは見返りに同じものを受けるのである。(同上 5 巻 30)

培われた知性は、偉大な宝物であるが、それは同情と清められた愛の和らげる感化がなければ、最高に価値あるものとはならない。わたしたちには他の人々への優しい思いやりの言葉と行為があるべきである。わたしたちは親切な言葉や感じの良いまなざしのうちに、何千もの小さな心遣いを示すことができ、それはふたたびわたしたちに反射するようになる。思いやりのないクリスチャンは、他の人々をなおざりにすることによって、自分たちがキリストと調和していないことを示すのである。キリストと一致していながら、他の人々には不親切で、彼らの権利には無頓着になるということはあるえない。多くの者たちは親切な同情を、熱烈に求めている。神はわたしたち一人ひとりに、他の人々の個性に溶け込むことのない自分自身の個性を与えられたが、もしわたしたちが確かにキリストのものであり、このお方の御心がわたしたちのものであるならば、わたしたちの個々の特性はずっと目立たなくなるのである。わたしたちの救い主の生涯がそうであったように、わたしたちの生涯は他の人々への善と幸福のために捧げられるのである。わたしたちは無私無欲であるべきであり、他の人々からわたしたちが受けた好意に対する感謝を示すための機会を、小さなことのうちにおいてさえ常に注意して捜すべきであり、やさしい親切な行為と愛の小さな行いによって、他の者たちを励まし、彼らの悲しみと重荷を軽くし和らげるための機会を見張っているべきである。これらの思いやりのある礼儀は、わたしたちの家族の中で始まって、家族の輪の外に広がって、生活の幸福の全体をつくり上げる助けとなる。そしてこれらの小さな事柄を怠ることは、生活の苦悩と悲しみの全体をつくり上げるのである。(同上 3 巻 539, 540)

頼りになる光の担い手たち

「あなたがたは、以前はやみであったが、今は主にあつて光となっている。光の子らしく歩きなさい。」(エペソ 5:8)

クリスチャンは灯台守の忠実さから教訓を学ぶことができる。「ある紳士が以前、軌道のない海において彼らを脅かしている危険を警告するために、非常に危険な場所に置かれていた灯台を訪ねた。灯台守は 10 リーグ(約 50 キロ) 先の海上からでも見ることのできる自分の光の明るさについて自慢していた。そのときその訪問者は彼に、「あなたが熱心に話されることはよいことです。わたしは人が自分の確かに知っていることを話すのを聞くのが好きです。でも、もし光の一つが消えたらどうなるのですか」。

そのような単なる推測に対してびっくり仰天して、「決して、決して! とんでもない! それはあり得ない!」と感じやすい見張り人は答えた。彼は大洋を指差して続けた、「なぜなら、何も見えない向こうに、世界のすべての港に向かって船が通り過ぎているのです。もし、今夜わたしのガス灯の一つが消えるなら、六ヵ月以内に、もしかしたらインドから、あるいはオーストラリアから、あるいはわたしが以前聞いたこともない港から、次のような手紙が来るのです。すなわち、かかる夜の何時何分に、かかる地点において、光は弱く薄暗く灯っていた。見張り人は自分の持ち場を怠り、そしてその結果、船舶は荒海において危険にさらされた」と。そして彼の顔はその熱烈な思いに輝いた。「ああ、時々、暗い夜、また荒れた天候においてわたしは、海を眺め、世界全体の目がわたしの光を見ているかのように感じるのです。消える? 薄暗くなる? その炎が弱くちらついたり、消えたりする? ああ、そんなことは、断じてありません!」

それでは、試みられている魂のために輝いているクリスチャンは、彼らの光が消えることを許すのだろうか。なぜなら、常に生涯の波立つ海において、わたしたちが見ることのない魂、暗闇の中における見知らぬ水夫が、もしかしたら試みという大波のただ中にいるかもしれないのである。キリストは偉大な光であり、クリスチャンはその光を反射するように任命されている。大洋は広大で、その危険は多く、遠方の航海者の目は灯台―イエス・キリストの教会―に向けられている。もし世が教会とキリストの間に入るなら、その光は薄暗く灯り、魂はその光の欠乏のゆえに失われるのである。これがすべての心の言葉とならないだろうか、……なんですって! わたしのうちにある光が弱くなり、薄暗くなるとは! いいえ! そんなことは決してありません!……

神はわたしたちに他の者たちに及ぼす感化の責任を負わせられる。……見張り人が海の上に散在している船を見ることが不可能だったのと同じく、わたしたちにとって結果を判断することは不可能である。(ヒストリカル・スケッチ・オブ・SDA ミッション 143)

10月7日

神はあらゆる状況において働かれる

「そして、あなたがたのうちに良いわざを始められたかたが、キリスト・イエスの日までにそれを完成して下さるにちがいないと、確信している。」(ピリピ 1:6)

パウロの経験を少し考えてみよう。使徒の働きが試みられ、迫害されている教会を強めるために最も必要とされているように思われたまさにその時に、彼の自由は取り去られ、鎖につながれたのであった。しかしこれこそ主の働かれるべき時であり、獲得された勝利は尊いものであった。パウロがほとんど何もできないように思われたこのときこそ、真理が王宮への入り口を見つけた時であった。これらの偉大な人物の前における、パウロの巧みな説教ではなく、彼のかせが彼らの注意を引いた。捕われの身となったことによって、彼はキリストのための勝利者となった。彼が長く、不正な監禁に服した忍耐と柔和さが、これらの人々に品性を深く考えさせた。……

神の支える恵みが、投獄されているパウロを助け、彼を快活にし、苦難においても喜ぶことさえできた。信仰と確証によって彼は、ピリピの兄弟たちに手紙を書き、彼の投獄は福音の推進という結果になったことを示した。彼はこのように書いている。「さて、兄弟たちよ。わたしの身に起った事が、むしろ福音の前進に役立つようになったことを、あなたがたに知ってもらいたい。すなわち、わたしが獄に捕われているのはキリストのためであることが、兵營全体にもそのほかのすべての人々にも明らかにになり、そして兄弟たちのうち多くの者は、わたしの入獄によって主にある確信を得、恐れることなく、ますます勇敢に、神の言を語るようになった」(ピリピ 1:12-14)。

わたしたちにはこの歴史から学ぶべき教訓がある。それは神の働かれる方法を明らかにしている。主は、わたしたちにとっては失敗と敗北のように思われることから、勝利をもたらすことがおできになる。敵を失望させることが常に、このお方のご計画である。わたしたちは見えないもの、永遠につづくものを見るべきときに、神を忘れて、見えるもの、一時的なものを見がちである。不幸または突然の災難がおとずれるとき、わたしたちはすぐ神を残酷な方として非難しようとするのである。このお方が、ある働きにおいてわたしたちの有用性を中断することをよしとされるとき、わたしたちは悲しみ嘆く。わたしたちは、これが神の働かれる方法であるかもしれないと、じっくり考慮しない。わたしたちは、懲らしめが神の偉大なご計画の一部であること、またわたしたちは苦悩のつえの下で、活動的奉仕に携わっていたときよりはるかに多くのことを主人のためになしうることを学ばなければならない。……わたしたちが苦悩や死別によって悩まされているとき、神は必要な助けを送られる。このお方の約束は、確固として変わることはないものであることが分かるのである。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1900年2月21日)

人を自分よりすぐれた者とする

「何事も党派心や虚栄からするのでなく、へりくだった心をもって互に人を自分よりすぐれた者としなさい。おのおの、自分のことばかりでなく、他人のことも考えなさい。」(ピリピ 2:3, 4)

イエスを絶え間なく仰ぎ見ている魂は、このお方の自己否定の愛と、深いへりくだりを見、このお方の模範に倣うのである。誇り、野心、詐欺、憎しみ、利己心は心の中から清められなければならない。多くの者にとってこれらの悪の特性は部分的には抑えられているが、心から完全に断ち切られてはいないのである。好都合な状況下では、それらが新たに生じて、神に対する反逆へと成熟する。ここに恐ろしい危険がある。(教会への証 5 巻 175)

第一の大いなる戒めは、「心をつく……して、主なるあなたの神を愛せよ」。「第二はこれである、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』」(マルコ 12:30, 31)。これらの二つの戒めに、道徳的存在者の全体の関心と義務がかかっている。自分がしてほしいように、他の人々に自分たちの義務をはたす者たちは、神が彼らにご自分を表すことのできる立場へとおかれる。彼らは神に承認されるのである。彼らは愛において完全なものとされ、彼らの働きと祈りは無駄になることがない。彼らは源泉からたえず恵みと真理を受け、惜しげもなく、自分たちが受けた神の光と救いを他の者たちに伝えるのである。彼らのうちに聖書の言葉が成就される、「あなたがたは……きよきに至る実を結んでいる。その終極は永遠のいのちである」(ローマ 6:22)。

利己心は神と聖天使たちの前で忌むべきものである。この罪のゆえに、多くの者たちは、彼らが喜ぶことのできるよきものを獲得しそこなうのである。彼らは自分のものを利己的な目でながめ、自分自身の利益ほど他の人々の利益を愛し、求めることをしない。彼らは神の順序を逆にする。他の人々に、自分が彼らにしてほしいように行う代わりに、他の人々が自分のためにしてほしいと望むことを自分自身に行い、自分自身に返ってくるのを最も嫌うことを、他の人々に行うのである。ここにあなたが学ぶべきことがある。愛は神から来る。あなたはキリストのふところに宿っている愛を持っていない。神に捧げられていない心は、天来の起源を持つこの植物を生じさせたり、作り出したりすることはできない。それが繁茂するためには、常に天の露によって水やりされねばならない。それはキリストが支配なさる心においてのみ、繁茂することができる。この愛は行動なしに生きることも、繁茂することもできない。またこの愛が行動するとき、それは熱烈さのうちに増し加わり、その性質を他の人々へとさしのべ、広めずにはいられないのである。(同上 2 巻 550, 551)

10月9日

キリストはわたしたちを引き上げるためにかがまれた

「キリスト・イエスにあっていただいているのと同じ思いを、あなたがたの間でも互に生かしなさい。キリストは、神のかたちであられたが、神と等しくあることを固守すべき事とは思わず、かえって、おのれをむなしうして僕のかたちをとり、人間の姿になられた。その有様は人と異ならず、おのれを低くして、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた」(ピリピ 2:5-8)。

罪人のためになされた救い主の驚くばかりの謙遜を、わたしたちがいく分でも理解できるようにと使徒〔パウロ〕はその要点を一つ一つ長く説明している。彼はわたしたちの前にキリストを、神と等しく天使の尊敬を受けておられた時のお方として示している。それから、ご自分の人間のみ腕で墮落した人間に手を伸ばし、その墮落から、望み、喜び、また天へと引き上げることができるようにと、このお方が屈辱の最も低いどん底にいたるまで下ってこられた足跡をたどっている。

キリストの屈辱が理解され、認識されるようにとパウロは心から切望した。天の王によって払われた驚くべき犠牲を考えるように人間が導かれることができたなら、その人の心からはすべての利己心が消滅すると信じた。彼はまず、天においてキリストが占めておられた地位、すなわち、父のふところにおられたことに言及し、次にその栄光を捨て、自ら進んで人間の性質という卑しい状態にことごとく服し、しもべの責任を引き受け、死に至るまで従順であられたキリスト、最も不名誉な、謙悪すべき、最も恥ずべき、一番苦しい十字架の死をうけられたキリストを示している。クリスチャンはこの人類に対する驚くべき神の愛の表れを熟考しながら、愛の感動を覚え、またわたしたちは自分自身のものではないという事実を自覚しないでいられようか。こういう主に対していやいやながら、あるいは利己的な動機から仕えるべきではない。(教会への証 4 巻 457, 458)

イエスは、ご自分の王冠と王衣を着て、御父の右の座にとどまることもおできであった。しかしこのお方は、天のすべての富と誉れと栄光を、人性の貧困に換え、またご自分の最高指揮官という地位を、ゲッセマネの恐怖とカルバリーの屈辱と苦悩に換えることを選ばれた。そしてご自分の苦しみと血のバプテスマによって、罪の世を清め贖うことができるように、このお方は悲しみの人となり、病を知られたのであった。(同上 121)

当然の権利としてすべてのものがご自分のものであったにもかかわらず、キリストはそれらすべてを放棄された。それはあなたに命を与え、どのようにご自分のために生きることができるかを教えるためだったのである。このお方を失望させてはならない。……このお方の慈愛について語りなさい。(コンピアニョ・ビジター 1912 年 10 月 2 日)

自分自身の救いの達成に努める

「わたしの愛する者たちよ。そういうわけだから、あなたがたがいつも従順であつたように、わたしが一緒にいる時だけでなく、いない今は、いつそう従順でいて、恐れおののいて自分の救いの達成に努めなさい。あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であつて、それは神のよしとされるところだからである。」(ピリピ 2:12, 13)

自分たちがバプテスマの誓いに対して真実であるという、決定的な証拠を示さない者たちが多くいる。彼らの熱心さは形式的行為、世俗的野心、誇り、自己愛によって冷えこむ。……自分たちの心のうちに真の改心の働きを経験する人々は、彼らの生涯に霊の実を表す。ああ、ほとんど霊的な生活を送っていない者たちが、永遠の命が与えられるのは、神の性質にあずかり、世にある欲のために滅びることをまぬかれる者たちだけであることを、悟るならば! (教会への証 9 巻 155)

宗教は単なる感情、あるいは気分ではない。それは、すべての日常の義務と、生活の取引に織り込まれる原則である。この原則が伴うことを妨げるものは何一つ受け入れることもしないし、そのような仕事には携わらないのである。清く傷のない宗教を保つには、辛抱強く努力する働き人になる必要がある。わたしたちは自分自身で、何かをしなければならない。だれもわたしたちの働きをすることはできない。わたしたちだけが、恐れおののいて自分自身の救いの達成に努めることができる。これが、主がするようにとわたしたちのために残された働きそのものである。(同上 2 巻 506)

人には、永遠の命のためのこの大いなる奮闘において、役割が割り当てられている。彼は聖霊の働きに応じなければならない。闇の力を打破するためには奮闘が要求されており、聖霊はこれを達成するために彼のうちに働くのである。しかし、人は怠惰のうちに救われるような受身の存在ではない。彼は不死のために奮闘する際、すべての筋肉を最大限に用い、すべての機能を働かせるようにと求められている。しかし能力を供給されるのは、神である。(教育の特別な勧告 207, 208)

わたしたちは神との共労者とならなければならない。わたしたちにとって生涯とは、恐れおののき、謙遜で熱心な救いの達成とならなければならない。そうすることによって、信仰と望みと愛が、わたしたちの心に宿り、勝利者を待っている報いの確証をわたしたちに与えるのである。

容赦ない確固とした敵は、試練のために身構えず、絶え間ない祈りと生きた信仰によって保護されていないすべての魂に、策略を用意してきた。わたしたちは個人的に、あるいは団体として、自分自身を絶え間ない攻撃から守ることはできない。しかしイエスの力のうちに、すべての誘惑、すべての敵対する感化に、それが公然であろうと密かであろうと、首尾よく抵抗することができるのである。(ヒトリカル・スケッチ・オブ・SDA ミッション 136)

喜びつつ光を輝かす

「すべてのことを、つぶやかず疑わないでしなさい。それは、あなたがたが責められるところのない純真な者となり、曲った邪惡な時代のただ中であって、傷のない神の子となるためである。あなたがたは、いのちの言葉を堅く持って、彼らの間で星のようにこの世に輝いている。」(ピリピ 2:14, 15)

神の憐みによってわたしたちは、世という採石場から真理の力強い刃によって、削られ、磨きあげられ、天の建物にふさわしいものとされるために、取り出されたのである。わたしたちは、主に贖われた者たちが歩むようにとしかれた大通りに連れてこられたのである。そしてわたしたちは、不平の代わりに喜びをもってこの道を進むべきである。(ビュー・アノド・ハルド 1892年9月20日)

もし長い間あなたにつぶやいたり、不平を言ったり、あら捜しをしたりする習慣があったならば、あなたはそれを止めなければならない。なぜならあなたは、自分の品性のサタンのような一面を見せているからである。もしあなたが自分の魂をなおざりにし、他の者たちのうちに欠点を見つけ、あら捜しをし始めるとすれば、あなたはサタンの働きをしているのである。しかしもしあなたがイエスの愛を語り、あなたの周りにいる人々を、あなたの感化によって祝福しているならば、あなたは自分をイエスとの密接な関係へと入れているのである。毎日あなたは、勝利を得ているのである。……

あなたは感情によって支配されてはならない。あなたは見えるものから、見えないものに目を向け、神の御約束に信頼し、喜んでいなければならない。わたしは、もしわたしたちが皆、神をほめたたえ、キリストのうちに宿っているならば、何という喜びをもって天使たちが、天からわたしたちを見下ろすことだろうと思った。もし、本当にクリスチャンにとって満ちみちた喜びがあるとすれば、なぜわたしたちはそれをわがものとし、世に明らかにしないのだろうか。(同上 1890年8月5日)

さて、あなたがすべてのつぶやきと不平を捨て去り、光を見たと思定してみよう。それを試し、わたしたちがどんな生涯を得るようになるかを見てみよう。サタンが疑いと暗闇を持ちかける時、わたしは自由になるのだ、わたしは自由なのだと言いなさい。そしてサタンがあなたは罪人であると語るとき、わたしはそれを知っているが、イエスは、「わたしがきたのは、義人を招くためではなく、罪人を招くためである」と言われたと告げなさい(マタイ 9:13)。あなたの思いをイエスにとどめておくのを助けてくださるように、神に求めなさい。そうすれば、サタンはあなたの思いを支配することはできない。すべての平凡なことを捨て去りなさい。そして、イエスを通して自分の魂を低い地上の事柄を超越して高め、世に対する光になろうと決心しなさい。あなたの言葉が精選された銀のごとくに、またあなたの会話が主にある望みと勇氣に満ちたものとなるようにしなさい。そして、あなたがどこにしようとも、あなたの周りにいる人々は、尊い感化があなたに伴っていることを悟るのである。神の光と愛と力はあなたの上にとどまるのである。(パイナルコー 1892年7月15日)

キリストを得るために

「しかし、わたしにとって益であったこれらのものを、キリストのゆえに損と思うようになった。わたしは、更に進んで、わたしの主キリスト・イエスを知る知識の絶大な価値のゆえに、いっさいのものを損と思っている。キリストのゆえに、わたしはすべてを失ったが、それらのものを、ふん土のように思っている。それは、わたしがキリストを得るためであり、律法による自分の義ではなく、キリストを信じる信仰による義、すなわち、信仰に基く神からの義を受けて、キリストのうちに自分を見いだすようになるためである。」(ピリピ 3:7-9)

魂がキリストを愛するようになるときはいつも、他のすべての愛情は、天来の愛という純潔な精錬する原則の下に置かれる。生まれつきの心を支配していた誇り、激情、野心はイエス・キリストに明け渡されるのである。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1894年11月26日)

もしわたしたちがイエス・キリストを受け入れるとすれば、わたしたちはすべての条件、すべての要求を受け入れなければならない。そしてすべてのことにおいて、神の国を第一に考慮し、自分たちの生涯の務めとしなければならない。困難はそれ自体が障害物であるかのように見える。しかし、最大の困難は自己から始まるのである。それはその人にある一切を要する。なぜならキリストは、すべての人の心と魂と力と思いとを要求されるからである。……それは、謙遜、自己否定、自己犠牲、人間の激情との絶えざる戦いを要するのである。わたしたちは生まれつきの気質を持続することはできないのである。……

半分をキリストに捧げ、半分は新たにされることなく敵の思いを持つということは、自分自身にとってつまずきの石となることであり、また他の者たちにとってもつまずきの石となること、すなわちキリストにとって恥辱となり、教会と伝道の働きにおいては弱さとなることを意味している。もしわたしたちが完全に改心することなく、み言葉を行う者になろうとしないのであれば、せめてキリストのために、主に仕えたと公言しながら罪と悪魔に仕えることによって他の人々を迷いださせ、彼らのクリスチャン経験を台無しにすることがないようにしよう。完全に自己、魂、体、霊を明け渡すことなしには、戦いは絶望的である。自己がキリストのうちに隠されなければならない。(聖書訓練学校 1916年10月1日)

世の驕い主は欺瞞者として軽蔑され、悪人として追跡された。そうであればキリストの僕となる者たちが、彼らの主より少しでもよい取り扱いを受けることを期待するのだろうか。もし彼らがキリストの働きをするなら、友人も親戚もあなたに敵対して立つようになる。友人も親戚も彼らを迫害し、捨て去り、裏切るのである。信者は自分が耐えねばならないことに落胆してはならない。彼の唯一の懸念は、こうした憎しみが自分に向かって燃え立つのは、ただキリストのために自分の義務を果たす忠実さによるもので、それ以外の理由ではないということではなくてはならない。真の神の子供は、次のように言うのである。わたしは、心をためし正直を愛される神を相手にしなければならないことを知っている、と。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1894年11月26日)

押し進む

「兄弟たちよ。わたしはすでに捕えたとは思っていない。ただこの一事を努めている。すなわち、後のものを忘れ、前のものに向かってからだを伸ばしつつ、目標を目ざして走り、キリスト・イエスにおいて上に召して下さる神の賞与を得ようと努めているのである。」(ピリピ 3:13, 14)

もしわたしたちの経験のうちに、暗い出来事があったなら、それを繰り返すことによってその記憶を鮮明に保ち続けるようなことをしないようにしよう。後ろのものを忘れ、前のものに向かっておし進もう。感謝と讃美をうみだす考えと感情だけを培いなさい。もしあなたが不当な扱いを受けてきたならば、それを忘れ、イエスの大いなる憐れみ、慈愛、言葉には尽くせない愛についてのみ考えなさい。非難するよりも讃美することを学びなさい。もしあなたが侮辱と虐待に遭っても、落胆してはならない。なぜならイエスも同じように遭われたからである。忠実さをもってあなたの働きをなし、前進しなさい。神の御言葉の尊い約束を思いに蓄え、たびたびそれらを繰り返すことによって、このお方との楽しい交わりを持ちなさい。いらだつのをやめ、不平をやめ、あら捜しをすることをやめ、そしてあなたの心のうちで神への旋律を奏でなさい。感謝すべきすべてのことについて考えなさい。そして、神を讃美することを学びなさい。(サイズ・オブ・ザ・タイムズ 1883年9月27日)

誘惑が襲ってくるとき—それは確実にやって来るのであるが—、心配と当惑があなたを囲むとき、行き詰まり落胆して、ほとんど絶望に屈しようとしているとき、最後にあなたが信仰の目を持って光を見たところを見なさい。ああ、そこを見るのである。……罪があなたの魂を支配しようと奮闘し、良心を苦しめるとき、不信が思いを曇らせるとき、救い主のもとに行きなさい。このお方の恵みは罪を制御するのに、十分である。このお方は、わたしたちを許され、わたしたちを神にあって喜ばせてくださる。

わたしたちは自分を見れば、弱さしか見えず、わたしたちに対する神のご目的を忘れてしまう。わたしたちは、神がキリストをわたしたちのために死に渡されるほど、高い価値をわたしたちの上において下さったことを忘れるのである。ああ、これらすべてのことがわたしたちのためになされてきたにもかかわらず、このお方がわたしたちに生きることを可能とくださった生涯を生きないことによって、キリストを落胆させることがどうしてできようか。わたしたちの無能と力のなさについて、もはや話すことをやめよう。後のものを忘れ、天に向かう道を前進しよう。活用するならわたしたちをもっと有用な者とする機会を、一つもなおざりにしないようにしよう。そうするとき、聖潔が金糸のように、わたしたちの生活に行き巡るのである。そして、天使たちはわたしたちの献身を見て、「わたしは人を精金よりも、オフルのこがねよりも尊いものとする」という約束を繰り返す(イザヤ 13:12 英文訳)。全天は、弱く不完全な人間が、イエスの生命を生きるために自らをこのお方にお渡しするとき喜ぶのである。(レビュー・アンド・ヘラルド 1908年10月1日)

環境に左右されずに生きる

「〔パウロは宣言した、〕わたしは乏しいから、こう言うのではない。わたしは、どんな境遇にあっても、足ることを学んだ。わたしは貧に処する道を知っており、富における道も知っている。わたしは、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、ありとあらゆる境遇に処する秘けつを心得ている。わたしを強くして下さるかたによって、何事でもすることができる。」(ピリピ 4:11-13)

わたしたちの愛を増し加え、このお方を信じるわたしたちの信頼を完全なものとするために、神はわたしたちを試すような状況下にわたしたちが置かれることをお許しになる。自己否定とこのお方と共に苦しむことを通して、わたしたちは恵みと真理の知識とにおいて成長する。試練はやってくるが、それらはわたしたちが神の子である証拠である。パウロは大いなる試練を経験したが、自分の天父が死なれたかのように落胆したりはしなかった。彼は苦難のうちにあって喜んだ。なぜなら彼はキリストの苦しみにあずかることを通して、このお方のかたちに似た者となることを望んでいたからであった。(ビュー・アソッド・ワルド 1884 年 5 月 20 日)

あなたがキリストの学校で尊い生涯の教訓を学べないように妨げるのは、利己的安楽への愛、快楽への愛、あなたの自尊心、自己称揚である。環境や状況が自分を形づくることを許さず、状況を超越して生き、神なる模範であるお方に従って自分の品性を形づくるのが、クリスチャンの義務である。彼は自分が見出されるところにおいてはどこであって、忠実であるべきである。彼は自分の能力を最大限に利用して、神から与えられた機会を向上させることによって、忠誠をもって自分の義務を果たすべきである。神の栄光だけに目を注いで、自分がどこにしようともイエスのために働くべきである。わたしたちは自分の意志、心をイエスに明け渡し、キリストと親しくなるべきである。わたしたちは自己を否定し、十字架を取り上げ、イエスに従わなければならない。わたしたちのうちだれ一人として、狭い十字架を負う道による以外、天国にたどり着くことはできない。しかし、なんと多くの者たちが十字架を飾りとして身につけながら、実際の日常生活においては十字架を負うことを怠ることであろう。

なんと多くの者たちがキリストの僕であると公言しながら、このお方のために非難と恥を負うことを嫌うことであろう。十字架は自分を喜ばせるためのものではない。それは快楽を愛する者たちの道の真ん中に横たわっており、わたしたちの肉の欲と利己的傾向を切り通すのである。十字架はあなたの働きのすべての不忠実を非難する。もしあなたがキリストの十字架を負うなら、あなたは義務や重荷を負うことを避けないのである。(同上 1891 年 9 月 22 日)

忍耐強く快活な満足は「大いなる賜物」の一つである(コリント第一 12:31)。また義務の道に従う勇気も、たとえそれがわたしたちを友達から引き離そうとも、同様である。しかし、信念の勇氣は決して、自分自身の意見に固執する強情さに導くことはない。すべての者は目を覚まして祈っていよう。(太平洋連合記録 1906 年 7 月 26 日)

10月15日

ゆるぐことなく、しっかりふみとどまる

「あなたがたも、かつては悪い行いをして神から離れ、心の中で神に敵対していた。しかし今では、御子はその肉のからだにより、その死をとおして、あなたがたを神と和解させ、あなたがたを聖なる、傷のない、責められるところのない者として、みまえに立たせて下さったのである。ただし、あなたがたは、ゆるぐことなく、しっかりと信仰にふみとどまり、すでに聞いている福音の望みから移り行くことのないようにすべきである。」(コロサイ 1:21-23)

わたしたちは信仰に堅く立ち、強められ、定着できるように、個人的に福音の真理に根ざし、福音を基としているだろうか。わたしたちは、神に生ける託宣を委ねられた者として、また神の奥義の知識を持っている者として、自分たちの執事職に忠実で真実であろうか。真に改心している者たちは、神のための宣教師として、真理がその変化させる効果と聖化させる力において、彼らにとってどういうものであるかをあらわすのである。……

キリストを信じる信者だと公言する者たちが、このお方の神性を受けた者であるならば、世は今の状態のようにはならなかったであろう。キリスト教の感化を減じるのは、真理を信じていると公言していながら、真理を実践しない者たちの模範である。(ゴスペル・アラド 1900 年 1 月 1 日)

わたしたちの信仰のすべての立場は、詳細に審査される。そして、もしわたしたちが徹底的な聖書の研究者となり、堅く立ち、強められ、定着していなければ、世の偉大な人々の知恵がわたしたちを惑わすようになるのである。(教会への証 5 巻 546)

わたしたちは思いのすべての機能を教育し訓練しない限り、信仰に定着していることはできない。信仰にふみとどまるとは、確固とした目的をもって神が賜ったすべての能力を用い、神と共に建てる熟練した有能な建築者となり、信仰のうちにいる魂を築き上げ、また真理の知識にまだいたっていない人々に手を伸ばすことを意味する。(レビュー・アンド・アラド 1909 年 2 月 18 日)

力は訓練によって手に入れることができる。神が彼らに与えられた能力を用いるすべての者たちは、このお方の奉仕へ捧げるために更なる能力を得るのである。神の御事業において何もしない者たちは、恵みと真理の知識において成長することができない。横たわって自分の手足を使うことをこぼむ者は、まもなくそれらを使うためのすべての力を失ってしまうのである。そのように神から与えられた力を使わないクリスチャンは、成長してキリストのようになることができないばかりか、自分がすでに持っている力も失うのである。彼は霊的な中風患者になってしまう。真理に堅く立ち、強められ、定着するようになるのは、神への愛と自分の同胞への愛をもって、他の人々を助けようと奮闘している人々である。真のクリスチャンたちは衝動的ではなく、原則によって神のために働く。すなわち、一日あるいは一ヶ月の間ではなく、全生涯のあいだ神のために働くのである。(教会への証 5 巻 393)

謙遜で感謝に満ちた歩み

「このように、あなたがたは主キリスト・イエスを受け入れたのだから、彼にあって歩きなさい。また、彼に根ざし、彼にあって建てられ、そして教えられたように、信仰が確立されて、あふれるばかり感謝しなさい。」(コロサイ 2:6, 7)

キリストはすべての者のために死なれた。犠牲は完成した。あなたにはまったく全能なる救い主がおられるということを世に示すのは、あなたの特権であり義務である。受け入れるすべての者に、完全で無償の救いを買取るために死なれたお方は、無限の神の御子であった。そうであるなら、なぜこのお方をあなたの救い主として受け入れないのだろうか。このお方はあなたの不信を非難される。このお方はあなたの信仰を尊重される。

地下室に行くなら、あなたが暗闇について語り、わたしは見るができない、わたしは見るができないと言うのもっともである。しかし光が輝く上の部屋に上ってくれば、あなたは暗闇のうちにいる必要はない。キリストがおられるところに来なさい。そうすればあなたは光を持つことができる。不信について語れば、あなたは不信を持つようになる。しかし信仰について語りなさい。そうすれば信仰を持つようになるのである。撒かれた種にしたがって、収穫がある。もしあなたが天と永遠の報いについて話すなら、あなたは主にあってますます明るくなり、あなたの信仰は働かされて、成長する。親愛なる友よ、あなたの目をイエスの上にしっかり留めなさい。そうすれば、眺めることによってあなたはこのお方のみかたちに似てくるのである。あなたの思いが絶えず地上のことがらを深く考えるのを許してはならない。そうではなく、思いを天来のことがらにとめなさい。そうすることによって、あなたがどこにしようとも、世の光となるのである。

日々、信仰の生涯を生きなさい。悩みの時について思い悩んだり、またそうすることによって前もって悩みの時を過ごしたりしてはならない。わたしはその大いなる試みの日に立つことができないのではないかと、いつも考え続けているようではいけない。あなたは現在のために、しかもこの日のためだけに生きるべきである。明日はあなたのものではない。今日あなたは自己に対する勝利を保持すべきである。今日あなたは祈りの生涯を生きるべきである。今日あなたは信仰のよき戦いを戦うべきである。今日あなたは神があなたを祝福されることを信じるべきである。そして暗闇と不信を克服するとき、あなたは主人のご要求を満たし、あなたの周りにいる者たちにとって祝福となるのである。(ヒストリカル・スケッチ・オブ・SDA ミッション 142)

昔のエノクのように神と共に歩む真に清い者は、自分たちの純潔について高慢になることなく、礼儀正しく、へりくだり、私心がなく、霊的な高慢も高揚もないのである。神を最もよく知り、自分たちの信仰の創始者であり完成者であられるお方に目を留め続けている者たちは、自分たちのうちに何もよいことや偉大なことを見ないのである。彼らは忠実になるために自分たちのできる限りのことをした後、自分たちはまだふつつかな僕であると感じるのである。(ライフスケッチ (1888 年) 212)

自己に死に、神に生きる

「このように、あなたがたはキリストと共によみがえらされたのだから、上にあるものを求めなさい。そこではキリストが神の右に座しておられるのである。あなたがたは上にあるものを思うべきであって、地上のものに心を引かれてはならない。あなたがたはすでに死んだものであって、あなたがたのいのちは、キリストと共に神のうちに隠されているのである。」(コロサイ 3:1-3)

コロサイの〔3〕章全体を注意深くまた祈りをもって学びなさい。これらは父と子と聖霊の名によるバプテスマによって葬られた者たちに宛てて書かれていることを、心に留めなさい。もしあなたが自分は世俗の関心と魅力に対して死に、上にあるものを求めるためによみがえらせられたのだということをつねに覚えているならば、これらの天の権威者たちが新しい生涯をこのお方と共に歩むための力をあなたに与えてくださると誓っておられる。(オーストラリア連合総会記録 1907 年 10 月 7 日)

わたしたちの平和を破壊するのは自己愛である。自己が生きている間は、屈辱や侮辱から自己を守ろうというも見張っていないなければならない。しかし自己に死に、わたしたちの命がキリストとともに神の中にかくれるならば、無視されても、軽べつされても、少しも心にとめなくなる。わたしたちは、人の非難に対してつぶとなり、嘲笑、侮辱に対してはめくらとなるのである。……

地上にみなもとを持っている幸福は、境遇の変化と同じように変わりやすいものである。しかしキリストの平和は変わらない永続的な平和である。それは人生のどんな境遇にも、この世の財産の額や友人の数によるのでもない。キリストが生きた水の泉であり、彼から得た幸福は決してうせ去ることはないのである。(祝福の山 19, 20)

わたしたちが神に生きるとき、自己には死んでいる。わたしたちが自己に死ぬことを、神が助けてくださるように。だれの名が命の書から消されないのであろうか。それは全身全霊をこめて神を愛し、自分を愛するように隣人を愛した者たちの名だけである。

利己心はわたしたちの存在そのものに混じりこんでいる。それは遺伝としてわたしたちに及んでおり、多くの者によって尊い宝として大切にされてきたものである。自己と利己心が克服されるまでは、神のための特別な働きを成し遂げることはできない。多くの者にとって、自分たちに関係あることは非常に重要なのである。自己が中心であり、その周りですべてが回っているように思われる。もしキリストが今地上におられたら、このお方はそのような者に、「沖へこぎ出し」なさいと仰せになられるであろう(ルカ 5:4)。それほど自己を氣遣ってはならない。あなたの生命と同じくらい、尊い命を持った人々が何千という。それなのに、なぜあなたは自分のことばかり考えて、岸から離れないのだろうか。義務や有用性を自覚しなさい。もしあなたが沖へこぎ出し、網をおろすなら、主人は魚を集められて、あなたは神の力強い働きを見るのである。(ヒストリカル・スケッチ・オブ・SDA ミッション 138, 139)

天の主人はすべてをご覧になる

「僕たる者よ、何事についても、肉による主人に従いなさい。人にへつらおうとして、目先だけの勤めをするのではなく、真心をこめて主を恐れつつ、従いなさい。何をするにも、人に対してではなく、主に対してするように、心から働きなさい。あなたがたが知っているとおりの、あなたがたは御国をつぐことを、報いとして主から受けるであろう。あなたがたは、主キリストに仕えているのである。」(コロサイ 3:22-24)

主人の目が直接に自分を見ていないからといって働き人が時間の活用を怠ったり、財産を大事にしなかったりするようななら、それは最も憎むべき種類の利己主義である。しかしこのような働き人は自分の怠慢が気づかれないでいると考えたり、自分の不忠実が記録されないと考えたりしているのであろうか。彼らの目が開かれさえすれば、監視者であられる神がごらんになっていて、すべての不注意が天の書に記録されていることがわかるのである。……

神の僕たる者は、主人の目が注がれていることをいつも感じていなければならない。バルシャザルの神聖冒瀆の酒宴をご覧になった神は、わたしたちの教会のどの伝道機関にも、商人の会計室にも、個人の職場にも同じように臨在しておられるのである。そして白い手は、神を汚した王の恐るべき刑罰を記録したように、わたしたちの怠慢を正確に記録する。バルシャザルの罪の宣告は火の文字で、「あなたが、はかりで量られて、その量の足りないことが表われた」と書かれた(ダニエル書 5:27)。もしあなたが神から与えられた義務を果たすことを怠るなら、これと同じ宣告があなたにくだされるのである。

口ではクリスチャンと称しながら、キリストと一体になっていない人がたくさんいる。……彼らは、奉仕は最小限の努力にとどめ、賃金は最高を要求する。「僕」という名前はすべての人にあてはまる。なぜならわたしたちはみな僕だからである。わたしたちは自分がどういう型の僕になるかということに気をつけなければならない。わたしたちは不忠実な型の僕であろうか、それとも忠実な型の僕であろうか。

できるだけ多くの働きをするという傾向は一般に僕たちの間にみられるであろうか。むしろできるだけ早く、できるだけ簡単に仕事を片付けてしまっ、できるだけ犠牲を払わないで賃金を得ようとするのが一般の流行ではないだろうか。できるだけ完全に仕事をするのが目的ではなく、報酬をもらうのが目的なのである。

……

目先だけの勤めをする僕として働く者は、自分の働きが人や天使の検査に合格しないことに気がつく。働きの成功に必要なものはキリストの知識である。この知識によってわたしたちは、自分が仕えていると告白している救い主のような、正しい健全な原則と、高貴な無我の精神をあたえられる。……そのあるところにおいて、すべての働きに忠実、節約、骨折り、徹底といったような特性がみられなければならない。(レビュー・アンド・ヘルト 1891年9月22日)

10月19日

貪欲を感じるか—それとも満足しているか

「しかし、信心があつて足ることを知るのは、大きな利得である。わたしたちは、何ひとつ持たないでこの世にきた。また、何ひとつ持たないでこの世を去って行く。ただ衣食があれば、それで足りるとすべきである。」(テモテ第一 6:6-8)

偉大な使徒は、テモテへの手紙の中で、富者に非常にたやすくしのびよる欺瞞、すなわち富を得る彼らの能力のゆえに、自分たちは知恵と判断において貧困のうちにいる者たちよりも優れているという欺瞞、また利得は信心であるという欺瞞を取り除くような教えを与える必要性を彼の思いに印象づけようと願った。彼らは自分たちの富のゆえに、神によって特別に恵まれているとうぬぼれるのである。これは恐ろしい欺きである。

個人個人は自分の全生涯を、富を得るという一つの目的のために捧げるかもしれないが、彼らがこの世に何も持って来なかったように、何も持って行くことはできないのである。彼らは死ななければならないのであり、自分たちが大変な労力を払って得たものを置いていかなければならない。彼らはこの世のわずかなものを得るために、自分たちの永遠の利益をかけるが、両方の世界を失うのである。しかしある者たちは、金持ちになることを心に決めている。彼らはたえずそれを研究している。そしてその熱心さに、考慮すべき永遠のことがらは見落とされるのである。富を追求するうちに、彼らはサタンによって盲目にされ、自分たちの動機はよいものであると信じるようになる。……もし彼らが自分たちの目的において失望させられないとすれば、彼らは富がもたらすであろうと思っていた幸福において失望させられるのである。(レビュー・アノド・ハルド 1880年3月4日)

キリストに従う者は、金銭への愛着にすつかりのぼせあがるようなことはない。キリストのために、彼は金銭を得ようと働き、自己を否定し、すべての不必要な出費を切り捨てる。それは自分の手に入る財産が、世にあつてキリストもなく望みもない魂を救う偉大な働きに用いられるためである。そのように彼は、このお方の貧しきを通して富む者になるために、わたしたちのために貧しくなられた世の贖い主と協力するのである。天軍の司令官は、ご自分の王衣と誉れの冠をあとなになさった。このお方は天の王宮を去り、ご自分の神性を人性で覆われた。それは人性が人性に触れ、墮落した人類のために神性が神の力をつかむことができるためである。安楽と快樂と自己称揚への愛着が、キリストの生涯を特徴づけることはなかった。このお方は悲しみの人で、病を知っておられた。このお方はわたしたちのとがのために傷つけられ、わたしたちの不義のために砕かれた。……自分たちを神に余すことなく明け渡すすべての者たちは、キリストの自己否定にあずかり、このお方の苦しみを共にするのである。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1898年10月13日)

多くの悲しみを免れる

「富むことを願い求める者は、誘惑と、わななどに陥り、また、人を滅びと破壊とに沈ませる、無分別な恐ろしいさまざまの情欲に陥るのである。金銭を愛することは、すべての悪の根である。ある人々は欲ばって金銭を求めたため、信仰から迷い出て、多くの苦痛をもって自分自身を刺しとおした。しかし、神の人よ。あなたはこれらの事を避けなさい。そして、義と信心と信仰と愛と忍耐と柔和とを追い求めなさい。」(テモテ第一 6:9-11)

多くの者たちは、金持ちになることを心に決めている。彼らはたえずそれを研究している。そしてその熱心さに、考慮すべき永遠のことがらは見落とされるのである。彼らはサタンによって盲目にされ、自分たちがこの利益を望むのはよい目的であると信じるようになる。彼らは自分たちの良心を酷使し、自分自身を欺き、常に富をむさぼっているのである。……彼らは自分たちの高潔で高尚な原則を犠牲にし、富のために自分たちの信仰を捨て、もし彼らが自分たちの目的において失望させられないとすれば、彼らは富がもたらすであろうと思っていた幸福において失望させられるのである。彼らは心配に巻き込まれ、当惑する。彼らは自らをその食欲の奴隷とし、自分たちの家族も同じ奴隷状態へと強いるのである。そして彼らが刈り取る利益は、多くの悲しみである。……

使徒パウロは富を用いる唯一の真の用途を示し、富んだ者たちに善をなすよう指示することをテモテに命じた。それは、彼らが善行に富んだ者となり、分かち与える用意ができ、喜んで伝えることができるためである。なぜならそうすることによって、彼らは永遠の生命をつかむことができるように、来るべき時一すなわち、時の終わりに備えてよい基金を自分たちのために蓄えるからである。(教会への証 1 巻 542)

もし思いの目がはかりしれない信心の奥義、世俗的な富を越える霊的な富の利点を見ることができれば、全身が明るいのである。もし利益が信心に思えるようになるまで、想像力が地上の壮麗さと素晴らしさの魅力によってゆがめられているなら、全身は暗いのである。思いの能力が地上の宝に集中するとき、それらの品位は下げられ、矮小化される。救い主はそのような人の状態を「暗い」と呼ばれることによって、心と魂の食欲の結果をより明白にしておられる。目が世俗的な宝への願望によって盲目にされるとき、永遠の宝の価値を見極めることはできない。……徳が食欲にかかわりを持つことは決してありえない、自己満足、贅沢への愛、利得への強欲は、決して神の最高の愛と一致することはできない。しかし「あなたの目が澄んでおれば、全身も明るいだろう」(マタイ 6:22)。(レビュー・アノド・ヘルド 1888 年 9 月 18 日)

信仰のよき戦い

「信仰の戦いをりっぱに戦いぬいて、永遠のいのちを獲得しなさい。あなたは、そのために召され、多くの証人の前で、りっぱなあかしをしたのである。」(テモテ第一 6:12)

わたしたちは絶えず信仰のよき戦いを戦っているところを見出されるべきである。わたしたちは自分たちがこのお方のみかたちに変えられるまで、キリストを眺め、このお方の御品性をこのお方のみ言葉の光のうちに熱心な祈りをもって学び、このお方の属性と徳を深く考えるべきである。前進のはしごの上では停止したり休んだりする時間はない。命令ははしごの上におられる神を見ながら、前へ上へと前進せよである。後ろを見ることは、目が回り、握っている手を緩め、すべてを失い、暗闇に後退することである。あなたは、一步一步登り、栄光から栄光へ、品性から品性へと変えられて、あなたの仲保者であられるキリストにしっかりとつかまらなければならない。これは霊なる主の働きによるのである。(パイ'l・エー1892年4月1日)

もしわたしたちが信仰のよき戦いを戦いたいのなら、わたしたちが個人的になすべき真剣な働きがある。永遠の利益がかかっているのである。わたしたちは義の武具で身を固め、悪魔に立ち向かわなければならない。そしてわたしたちには、彼が逃げ去るという確かな約束がある。キリストのために征服するために、敵の力から魂を救出するために、教会は果敢な戦闘を行うべきである。神と聖天使たちはこの戦闘に携わっている。兵卒になるようにとわたしたちを召された方を喜ばせよう。

すべての人がこの働きにおいて何かすることができる。だれ一人として、魂の救済のために真剣に私欲なく働かない限り、神の御前で潔白な者と宣言されることはない。教会は教訓と模範の両方によって、若者をキリストのために働き人となるように教えるべきである。自分たちの疑いについて不平を言い、自分たちは神とのつながりの確信を持っていないと嘆く者が多くいる。これは多くの場合、彼らが神の御事業において何もしていないという事実のせいである。彼らが他の者たちを助け祝福することを熱心に求めるようにしなさい。そうすれば、彼らの疑いと落胆は消え去るのである。

キリストの弟子であると公言する多くの者たちは、自分たちの名前が神のみ事業にとって大いなる誉れであるかのように話し行動するが、その一方で彼らは何の重荷も負わず、一人の魂も真理に勝ち取らないのである。そのような人々は、神が自分たちに何も要求なさる権利がないかのように生きるのである。もし彼らがこの方針をとり続けるなら、彼らはついに自分たちが神に何も要求する権利がないことを見出すのである。

それぞれの能力に応じて「それぞれ仕事を」定められたお方は(マルコ 13:34)、決して忠実な義務の遂行が報いられないままにはなさらない。忠誠と信仰のすべての行為は、神の恩恵と称賛の特別なしるしによって冠されるのである。(教会への証 5巻 395)

なぜ迫害があるのか

「いったい、キリスト・イエスにあって信心深く生きようとする者は、みな、迫害を受ける。」(テモテ第二 3:12)

神が不思議な摂理のうちに、義人が悪人に迫害されることを許されることは、信仰の薄い多くの者を大いに困惑させてきた問題である。神が、極悪人たちを栄えるがままにしておかれ、一方最も善良で純潔な人々が、彼らの残酷な力によって悩まされ苦しめられるのを見て、神に対する信頼を捨て去ろうとする者さえいる。正義にしてあわれみ深く、無限の力を持ったお方が、どうしてこのような不正と圧迫を黙認しておられるのか、と人々は問う。しかしこれは、わたしたちの関知すべき問題ではない。神はその愛について十分な証拠を与えておられるのだから、わたしたちは神の摂理の働きが理解できないからと言って、神の慈愛を疑ってはならない。……イエスはわたしたちのために、彼のどの弟子が悪人の残虐によって苦しめられるよりも激しい苦しみを受けられた。苦しみに耐え、殉教するために召された者は、神の愛するみ子の足跡をふみ従うに過ぎないのである。

……

主は、ご自分の子供たちを忘れたり、おろそかにしたりなさらない。ただ、主のみこころを行なおうとする者がだれも悪人に欺かれることがないように、悪人の本性があらわされることをお許しになるのである。また、義人たちが苦難の焔に入れられるのは、彼ら自身が清められるためであり、彼らの模範によって、他の人々が信仰と敬虔な生活の実際をよく理解するためである。そして、彼らの終始一貫した行為によって、神を信じ敬うことをしない人々を責めもするのである。

神は、悪人が栄え、悪人が神に対する敵意を表わすことをお許しになる。それは、彼らの罪惡の升目が満ちたとき、彼らが全く滅ぼされることが神の正義とあわれみによるものであることをすべての者が知るためである。神の報復の日が迫っている。そのときには、神の律法を破り神の民を圧迫した者がみな、その行為に対する正当な報いを受ける。そのときには、神に忠実に仕える者に対して行なわれたすべての残酷な、また不正な行為が、キリストご自身に対してなされたかのように罰せられる。……

今日、世に迎えられている宗教は、キリストとその弟子たちの時代の信仰のように純潔で聖なるものではない。キリスト教が世の中から迎えられているように見えるのは、罪と妥協する精神、神のみ言葉の偉大な真理に対する無関心、教会内における生きた敬神の念の欠乏のゆえにほかならない。初代教会の信仰と力が復興するならば、迫害の精神もまた復興し、……火は再び点じられるのである。(各時代の斗争闘上巻 41, 42)

許しの精神

「だれをもそしらず、争わず、寛容であって、すべての人に対してどこまでも柔和な態度を示すべきことを、思い出させなさい。わたしたちも以前には、無分別で、不従順な、迷っていた者であって、さまざまの情欲と快樂との奴隷になり、悪意とねたみとで日を過ごし、人に憎まれ、互に憎み合っていた。ところが、わたしたちの救主なる神の慈悲と博愛とが現れたとき、」(テトス 3:2-4)

柔和は喜んで静かに甘んじ、喜んで試練を耐える尊い恵みである。柔和は忍耐強くすべての状況下において幸福になるために働く。柔和はいつも感謝し、自分の幸福の歌を讃美し、神にむかって心から讃美の歌をうたうのである。柔和は失望と不正を耐え、報復しない。柔和は沈黙し不機嫌にならない。気難しい気性は、柔和の反対である。なぜなら、これはただ他の人々を傷つけ痛みを与え、それ自体何の楽しみも見出さないからである。(教会への証 3 巻 335)

わたしたちに対して示された神の憐れみと恩恵は、わたしたちがどのように過ちにおちいつている者を扱うべきかという模範である。真理を信じてと告白する者たちが神の御前に自分たちの心をへりくだらせ、このお方のみ言葉に従う時、主は彼らの祈りを聞かれるのである。

もしあなたの兄弟たちが過ちを犯すなら、あなたは彼らを許さなければならない。あなたはもっと分別をもつべき者たちのように、「わたしは彼らが十分にへりくだったとは思わない。彼らが自分たちの告白を感じているとは思わない」と言うべきではない。あたかもあなたが心を読むことができるかのように、あなたにいったい彼らを判断するどんな権利があるというのだろうか。主のみ言葉は、「そして悔い改めたら、ゆるしてやりなさい」(ルカ 17:3) と言っている。……そしてキリストがあなたをゆるされるのと同じほど、ただ七たびだけではなく、七たびを70 倍にするまで彼を許すべきである。

神は惜しげもなくわたしたちの罪を許され、それに相当する何かを返すようにとはお求めにならない。主は人々がどのように自分たちの同胞を扱うべきかがわかるように、彼らにこの模範をお与えになった。神がキリストのためにわたしたちの罪を許されたように、あなたも自分に不正を行った兄弟たちを許すべきである。もしあなたがついに勝利者となるならば、それはあなたの義のゆえではなく、キリストの義のゆえであり、神の長い忍耐、憐れみ、許しのゆえである。しかしもしあなたが親切、愛、許しの精神をあなたの兄弟に対して抱かないのなら、あなたは神の許しを受ける者たちの数には入らないのである。イエスがご自分の弟子たちに印象づけたいと思われる教訓は、ご自分の名を公言する者たちが報復の精神を抱き、また不親切な行為をすることがないようにということである。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1895 年 9 月 14 日)

今日はどれほど重要か

「きょう、み声を聞いたなら、……あなたがたの心を、かたくなにはいけない」。
(ヘブル 3:15)

将来をあてにしてはならない。すなわちかかげるべき十字架がいまほど重くなり、いまほど努力しなくても肉の心の傾向が制御されるようなより好都合な時を待つてはならない。……今日仕事に取りかかりなさい。さもないといつかあなたは手遅れになるかもしれない。今あなたが持っている印象は、明日はそれほど強くないかもしれない。サタンの罠はあなたを取り囲むかもしれない。燭台はその場所から取り除かれ、あなたは暗闇に取り残されるかもしれない。「あなたがたは、語っておられるかたを拒むことがないように、注意しなさい」(ヘブル 12:25)。まことの証人は「見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている」と言われる。(黙示録 3:20)。神の御言葉や、ご自分の代表者である使命者を通して与えられる警告と譴責と懇願の一つ一つは、心の戸をたたく音である。それは中に入ることを求めておられるイエスのみ声である。ノックを無視するたびに、戸を開けようという決心はうすれる。もしイエスの声が直ちに注意されないなら、それは他の幾多の音とともに思いのうちで混同されてしまい、世のわずらいと仕事に注意を夢中にさせ、確信がだんだんなくなる。心はだんだん感じなくなり、時の短さについて、また未来の大いなる永遠について危険な無感覚状態に陥る。あなたが天来の客を入らせないために障害物を積み上げている一方で、このお方はあなたの戸口に立っておられるのである。イエスはあなたに与えられた繁栄を通して、戸をたたいておられる。このお方は祝福があなたから他の人々へと流れ出るようにと、あなたの忠実さを試すために祝福を積み上げておられる。(レビュー・オブ・ヘラルド 1886年11月2日)

良心は、人間の激情という葛藤のただ中で聞こえる神のみ声である。それに抵抗するとき、神の霊は悲しまれる。……人が救われないという判決を下すのは神ではない。このお方は目の前に見通すことのできない暗闇を投げられることはない。しかし、まず人が神のみ霊の働きに抵抗するのである。そして、一度抵抗すると、二度目は抵抗するのがそれほど難しいことではなくなり、三度目にはさらにたやすく、そして四度目にははるかにずっとたやすくなるのである。……

今日、密室の祈りと聖書を読むことを怠るなら、明日はさほど良心の呵責を感じることなく省略できるようになる。すべては心の土にまかれたたった一粒の種のために、省略の長い一覧表ができあがるのである。逆に大切にされたすべての光線は、光の収穫を生む。一度抵抗した誘惑は、二度目にはさらに断固として抵抗する力を与える。自己に対して一つ一つ新たな勝利を得るとき、それらはより高く高潔な勝利へと道を滑らかにする。一つ一つの勝利は、永遠の生命へとまかれた種である。(教会への証 5巻120)

外科用のメスより鋭い

「というのは、神の言は生きていて、力があり、もろ刃のつるぎよりも鋭くて、精神と靈魂と、関節と骨髓とを切り離すまでに刺しとおして、心の思いと志とを見分けることができる。」(ヘブル 4:12)

主はご自分の民に、悔い改めてはじめのわざを行うように求めておられる。このお方は彼らが完全へと進んでいるべき時に、自分たちに信仰があるかどうか、自分たちの望みの基礎は正しく築かれているかどうか、自分たちは品性の欠点を大切にし、言い訳をしていないかどうか自分たちを吟味するようにと勧告される。教会の中に存在する世俗は、靈的死の重大な原因であるが、これは利己的で安楽を愛するメンバーの影響に原因がある。この致命的な病気は食い止められなければならない。化膿している致命的な物体を除く必要があるとき、外科医のメスが深く入れられる。そのように、もろ刃の剣よりも鋭い神のみ言葉は、心まで刃が届かなければならない。そうしなければ悪は、決して除かれることがないのである。……

わたしたちに必要なもの、わたしたちにとってなくてはならないのは、わたしたちの努力と共に働く神の霊である。自己を甘やかすすべてのことに終わりを告げなければならない。主のご臨在に対する熱心な願望と、魂の飢えがなければならない。「義に飢えかわいている人たちは、さいわいである、彼らは飽き足りるようになるであろう」(マタイ 5:6)。

それはわたしたちにとって、生死にかかわる重大問題である。わたしたちは靈的な麻痺状態となっており、すべての者が偉大な医者への助けを必要としている。このお方だけが、わたしたちの問題に手を差し伸べることがおできになる。このお方は、熱心な心と真剣な願いをもってわたしたちが招くのを、ただ待つておられるばかりである。……神は人や場所をかたより見るお方ではない。彼らが素通りされたのは、偉大な医者なるお方に少しでも気の進まないお気持ちがあったためではない。彼らがこのお方のために道を備えなかったのである。もしくは彼らが自分たちが傷つけた者たちに対して、へりくだって告白をすることを怠ったためかもしれない。彼らは魂の宮から偶像を捨て去らなかった。彼らには、その自己放縦や、まだあきらめる気になれないお気に入りの罪を悔い改めるという働きがある。何一つ欠けているものはないが、ただ心の準備と、イエスを大能なる助け主としてわたしたちのそばに来ていただくための熱心な信仰の祈りだけが足りないのである。このお方は来たいと切望しておられる。このお方はただわたしたちが道を備えることを待つておられるのであり、それができれば来られるのである。このお方が人としてへりくだって人の子らの間を歩まれた時、このお方はご自分を求め信頼したすべての者たちの身体と魂によいことをなされることを喜ばれた。そのように、もし彼らをご自分のみ言葉の中にこのお方の祝福のために道を備えるようにと命じられたことを行うなら、このお方は今ご自分のみ約束をご自分の民に立証なさるのである。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1883年5月17日)

相続人の態度

「土地が、その上にたびたび降る雨を吸い込んで、耕す人々に役立つ作物を育てるなら、神の祝福にあずかる。しかし、いばらやあざみをはえさせるなら、それは無用になり、やがてのろわれ、ついには焼かれてしまう。しかし、愛する者たちよ。こうは言うものの、わたしたちは、救にかかわる更に良いことがあるのを、あなたがたについて確信している。……怠ることがなく、信仰と忍耐とをもって約束のものを受け継ぐ人々に見習う者となるように、と願ってやまない。」（ヘブル 6:7-9, 12）

クリスチャンは、地という象徴によって描写されている。地は、上から降ってくる雨を吸い込んで、その地を耕し世話をする人のために実を結ぶのである。キリストに従う者たちは、生けるぶどうの木から樹液と栄養を集めるべきである。彼は神の栄光のために実を結ぶべきである。（レヴィュー・アンド・ヘラルド 1888 年 7 月 31 日）

〔キリストの愛が〕それを受ける者たちの心の中で、神の聖なる律法に対する敬意と尊敬を〔呼び覚ます〕。カルバリーから反射している光のうちに、律法が聖で公正で善であることが見られる。罪人が招いた違反という負債を払うために、神の御子の生命が犠牲にされた。罪人の心が愛と感謝に満たされ、また愛によって働き魂を清める真剣な信仰が呼び覚まされるのは、罪人が罪のいまわしい性質を認識し、また自分を贖うために、自分にもう一度の裁判と猶予期間を与えるために、神の御子が何を犠牲にされたかをいくぶんか認識するときである。この信仰と愛は、神に真に改心した者の魂の中に見られる。神の愛を経験する者は、過去の違反に対していつまでも屈辱と悔い改めを感じる。もしキリストがそれほどの大いなる犠牲を払われなければならなかったのなら、もしキリストがそのような苦悩をわたしの罪のために耐えなければならなかったのなら、わたしはへりくだりのうちに頭を下げ、このお方の神性なる魂にそのような悲嘆を与えたことを後悔しないだろうか。わたしはまたもや神の御子を、自ら十字架につけて、さらしものにしてすることがないように恐れないだろうか。救いの尊い賜物の真価を認める魂は、いつまでも十字架で死なれるキリストを眺めるのである。そしてその魂の言葉は、神の御子をそれほど傷つけた罪を犯したという無私の悲しみの言葉である。わたしはいつまでも、自分が罪を犯し、カルバリーの人がそれほど大きな苦悩の犠牲を払われなければならなかったことを悲しむことであろう。わたしは自分が刺し通したお方を見つめ、自分が神の律法を犯したことを悲しむ。わたしたちが自分たちのために払われた犠牲を正しく認識するとき、違反を犯し続ける特権を求めないのである。わたしたちは罪を捨て去り、わたしたちの固い心はわたしたちの魂に対するキリストの驚くべき愛のもとに溶けるのである。（サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1889 年 10 月 28 日）

天に目を向けて

「以上述べたことの要点は、このような大祭司がわたしたちのためにおられ、天にあって大能者の御座の右に座し、人間によらず主によって設けられた真の幕屋なる聖所で仕えておられる、ということである。」(ヘブル 8:1, 2)

暗い表情をたたえるクリスチャンは、自分たちの主を誤り伝えている。彼らはクリスチャンの生涯を、骨折りと辛苦の生涯として表している。彼らはそれがあたかも困難な働きであるかのように、つぶやきと苦痛のうめき声を上げながら歩む。天の門は閉められているだろうか。彼らには御父が天におられないのだろうか。あなたは彼らの態度から、イエスがヨセフの新しい墓におられ、入り口に大きな石が転がっていると考えるかもしれない。しかし、イエスはよみがえられた。このお方は高いところにのぼり、とりこを捕らえて引き行き、人々に賜物を分け与えられた。このお方はご自分が何をなさるかを明らかにされた。このお方は墓のかせを砕き、ご自分の民を彼らの捕虜の地から連れ出される。わたしたちは地上の低地にあまりにも近くに住んでいる。イエス・キリストの御顔に神の栄光の光が照り輝いている天の聖所の開かれた扉に、わたしたちの目を上げようではないか。このお方は「いつも生きていて彼らのためにとりなしておられるので、彼によって神に来る人々を、いつも救うことができるのである」(ヘブル 7:25)。救いの計画について話そうではないか。あなたが神の御約束を正しく認識することができるように、知恵の宝の鉱山を掘り起こそうではないか。キリストの愛に宿り、贖いの計画について語ろうではないか。わたしたちはどのようにして食欲や野心、また世に対する愛を克服することができるかを研究すべきである。わたしたちにはさほど重要ではないことがらに、それほど多くの時間を費やすほど、やることがないのであろうか。

キリストが世を去られたとき、このお方はご自分の弟子たちになすべき働きをゆだねられた。このお方は神のご品性を世に示すためにこられた。わたしたちはキリストを世に示すために残された。わたしたちは不信という闇の山につまずきながら、暗闇の道を進み続けるべきではない。主に贖われた者たちのために、歩むための道が与えられている。そしてこれこそ日毎にわたしたちが安全に歩むことができる道である。アザミをつかまずに、バラやゆりやなでしこを摘みなさい。わたしたちが神の御言葉の豊かな宝を理解するには、不義の告発を受けることがないように、自分の魂をすべての不義から分離させなければならない。忠実な兵卒としてわたしたちは、インマヌエルの君の旗の下で行進すべきである。わたしたちがどのように敵の攻撃に立ち向かうことができるかを知るために、聖書を学ぶべきである。キリストが試みられたとき、どのように勝利されただろうか。このお方は誘惑者に、こう書かれているという言葉でもって立ち向かわれた。このお方は神の御言葉を用いられた。この方法によって、わたしたちは勝利すべきである。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1889年4月15日)

審判を視野に入れて

「そして、一度だけ死ぬことと、死んだ後さばきを受けることが、人間に定まっている。」(ヘブル 9:27)

審判が始まり、かずかずの書物が開かれるとき、多くの驚くべきことを発覚するであろう。そのとき人々は、人間の目や有限な裁判にうつったようにはうつらない。密かな罪はそのとき衆目(しゅうもく)にさらされる。心の暗い部屋に隠されてきた動機と意図が明らかにされる。外面的にはただ神に誉れを帰し、人々に善を行いたいという願いしか見受けられなかったところに、企みのある野心や利己的な目的が見られるようになる。その時何ということが暴露されることだろう。純潔な動機と真実で高潔な目的の人は、今は軽視され、なおざりにされ、中傷され、軽蔑されているかもしれない。しかし彼らはそのとき、ありのままの状態で見られ、神の賞賛によって名誉を与えられるのである。偽善的で野心のある教師たちは、今は人々によって称賛され高められているかもしれないが、心の秘密を知られる神はごまかしの覆いを剥ぎ取られ、彼らのありのままの状態を示されるのである。すべての偽善は暴かれ、すべての中傷されている信者は義とされ、神のすべての忠実な管理者は承認され報われる。

このお方の名を取り入れ、このお方のバッジを身につけるすべての者がこのお方のものなのではない。イエスはわたしに従ってきなさいと仰せられる。罪深い習慣をほしきままにし、世のくだらないことを楽しむ者がキリストの子らであろうか。宗教的義務に怠慢な者たちが、キリストに従っている者たちであろうか。

.....

わたしたちは二人の主人に兼ね仕えることはできない。わたしたちはキリストとバアルに属することはできない。もしわたしたちが習慣と慣習において世のものであれば、わたしたちはキリストに属してはいないのである。わたしたちは、地と森の獣がこのお方のものであるという意味において、このお方のものであるかもしれないが、わたしたちはこのお方の選ばれた者ではない。わたしたちはただキリストのうちにいることによってのみ、神の管理者として立つ準備ができる。(レビュー・アソド・ハラルド 1884 年 1 月 1 日)

あなたには勝ち取るべき冠と獲得すべき天国と避けるべき地獄がある。それからキリストのためにわたしはあなたに尋ねたい。あなたの前にはっきりとした明確な光線のうちに輝いている光があるのに、それから目を背けて、わたしはこれを愛している、またあれを愛していると言うだろうか。神はあなたがた一人ひとりに、魂と体と霊の全体を高め、高尚にし、聖化するために、その大いなる配慮と愛のうちに神と共に計画し、協力し始めるようにと招いておられる。それは、わたしたちが神との共労者になることができるためである。すべての都市やすべての街において始められるべき働きがある。それが前進するのを助けるために、あなたは何をやるだろうか。(同上 1902 年 1 月 7 日)

勝利を目指す

「もしわたしたちが、真理の知識を受けたのちにもなお、ことさらに罪を犯しつづけるなら、罪のためのいけにえは、もはやあり得ない。ただ、さばぎと、逆らう者たちを焼きつくす激しい火とを、恐れつつ待つことだけがある。……あなたがたは、光に照されたのち、苦しい大きな戦いによく耐えた初めのころのことを、思い出してほしい。」（ヘブル 10:26, 27, 32）

キリストと天の世界のことを、もっと深く心に思うならば、主の戦いをたたかう上に力強い励みと支えを受けるであろう。すぐにもわたしたちの家郷となるべき美しい国の栄光を熟視するとき、世の誇りと執着は力を失う。キリストの美しさに比べるとき、世のすべての魅力はなんの価値もないものに見える。

自ら熱心な努力をしないで神の愛の保証を得ることができると思ってはならない。心が長いあいだ世俗のことばかりにとらわれていると、思考の習慣を変えることが困難になる。人はとかく目に見、耳に聞えることに注意をひかれ、関心をうばわれがちである。しかし、神の都にはいり、栄光のイエスを仰ぐ者になりたいと願うなら、この地上にある間に信仰の目をもってイエスを仰ぎ見る習慣をつけないといけない。キリストのみ言葉とご品性をたびたびわたしたちの思考と会話のテーマとし、特に毎日一定の時間をこれらの聖なるテーマについて祈りかつ瞑想するためにささげなければならない。

罪からのきよめは日々の働きである。神のご要求の一つを踏みにじっていながら、神の許しと祝福が得られるという信念で自分をごまかしてはならない。知っている罪を故意に犯すことによって、聖霊のあかしの声は沈黙させられ、魂は神から引き離される。どんなに宗教的な感情の恍惚状態にあろうとも、神の律法を無視する人の心の内にイエスは住むことができない。神は神をあがめる人にだけ栄誉をお与えになる。

「あなたがた自身が、だれかのしもべになって服従するなら、あなたがたは自分の服従するその者のしもべであって」（ローマ 6:16）。怒り、情欲、貪欲、憎悪、利己主義、その他の罪をほしいままにすると、わたしたちは罪のしもべとなるのである。……罪に仕えながらキリストに仕えることはできない。クリスチャンは罪のそそのかしを感じる。「肉の欲するところはみたまに反」するが、みたまは肉に逆らって絶えず戦いつづける（ガラテヤ 5:17）。ここにキリストの助けが必要である。人間の弱さが神の力と結合するとき、信仰は「感謝すべきことには、神はわたしたちの主イエス・キリストによって、わたしたちに勝利を賜わたったのである」と叫ぶのである（コリント第一 15:57）。（ビュー・アンド・ヘルド 1881年3月3日）

もっとよいふるさと

「〔アブラハムの真の子らは〕、地上では旅人であり寄留者であ……〔っ〕た。そう言いあらわすことによって、彼らがふるさとを求めていることを示している。……しかし実際、彼らが望んでいたのは、もっと良い、天にあるふるさとであった。だから神は、彼らの神と呼ばれても、それを恥とはされなかった。事実、神は彼らのために、都を用意されていたのである。」（ヘブル 11:13-16）

世を愛する者とキリストを愛する者との違いは、間違いようのないほど明白である。この世の者たちは地上の宝を確保するのに真剣で野心があるが、神の民はこの世と妥協することなく、その真剣に目を覚まし見張っている態度によって、自分たちが変えられていることを示す。彼らの家はこの世にはなく、もっとよい天にあるふるさとを求めていることを示すのである。（教会への証 2 巻 194）

もしわたしたちが確かにここにおいてただ滞在して、聖なる者だけが住むことのできる地へ旅しているのなら、わたしたちはそのふるさとをよく知ることを第一の働きとするのである。わたしたちは必要な準備について、そこの市民になるために、わたしたちが持たなければいけない風習と品性について熱心に質問するのである。その地の王であるイエスは、純潔で聖なるお方である。このお方はご自分の弟子たちに、「わたしが聖なる者であるから、あなたがたも聖なる者になるべきである」と命じられた（ペテロ第一 1:16）。もしわたしたちが今後キリストと罪のない天使たちと交わるなら、わたしたちはそのような交際のための適性を得なければならぬ。（レビュー・アンド・ヘルド 1881 年 11 月 29 日）

天への道が不快な道であるとだれにも思わせてはいけない。あなたの言葉と行動によって、この道は世と誇りの重荷と自尊心を持って入るには、まっすぐに狭すぎるが、それは贖われた者たちが歩むために与えられた尊い道であることを示しなさい。試練と落胆によって特徴づけられてはいるが、敵を打ち負かすための信仰と確固とした努力によって、勝利と成功の道とすることができる。

わたしたちはこの世においては寄留者であり旅人であるが、わたしたちは天の故郷へ旅をしている。わたしたちは落胆に遭う。しかし一見敗北に見えるすべてのものを、勝利に変えることがわたしたちの特権である。サタンは道の一步一步において、わたしたちの魂を得ようと戦うが、もしわたしたちがすべての必要な時のいと近き助けであられるイエスを見るならば、このお方は敵に対して旗をあげられるのである。すべての困難において不平を言うかわりに、キリストの十字架のよい兵卒として、苦しみを忍ぶことによって、わたしたちは信仰のよき戦いを戦うべきである。わたしたちの戦争の傷と傷跡は、パウロにとって戦勝記念品であったように、わたしたちにとってもそのようなものである。（ヒストリカル・スケッチ・オブ・SDA ミッション 130）

10月31日

わたしたちの御父は愛のうちに訓練される

「あなたがたは訓練として耐え忍びなさい。神はあなたがたを、子として取り扱っておられるのである。いったい、父に訓練されない子があるだろうか。……すべての訓練は、当座は、喜ばしいものとは思われず、むしろ悲しいものと思われる。しかし後になれば、それによって鍛えられる者に、平安な義の実を結ばせるようになる。」(ヘブル 12:7, 11)

わたしたちは……試練は益になるということを学ぶ必要がある。主の訓練を軽んじてはいけない。主に責められるとき、弱り果ててはならない。(サインズ・オブ・サ・タイムズ 1902 年 2 月 5 日)

最大の悲しみを担ってきた人々は、しばしば行くところどこへでも日光をもたらして、他の人々に最大の慰めをもたらす人々である。そのような人々は、自分たちの苦悩によって訓練され和らげられた。彼らは悩みが自分たちを襲ったときにも神への信頼を失わず、このお方の保護の愛に近くよりすがった。このような人々は、光と同様に闇を造られ、わたしたちの益のために懲らしめられる神の優しい配慮の生きた証拠である。キリストは、世の光であられる。このお方のうちに闇はない。尊い光である。その光のうちに生きようではないか。悲しみと不平に別れを告げなさい。主にあっていつも喜びなさい。繰り返して言うが喜びなさい。

苦しめられている人は、勇気を持つことができる。落胆している人は希望を持つことができる。なぜなら彼らには、同情深い友なるイエスがおられるからである。わたしたちのすべての困難や悲しみを、このお方の同情深い耳に入れることができる。わたしたちが共に集まるとき、暗闇や不信を語ることがないように、わたしたちの人生経験の陰鬱な章を物語ることがないようにしよう。わたしたちは、自分に示されてきた神の愛について語るようにしよう。その愛は自然界の中に、天空に、あらゆる神のみ摂理の賢い取り計らいの中に見られる。わたしたちは、自分たちの行く道を明るくしてきた日の光線を探し出し、感謝の心をもってこれらの記憶をいつまでも思っていよう。キリストの比類のない愛を深く考えよう。なぜならこのお方のうちにわたしたちには、絶えざる喜びの主題があるからである。このお方のうちには闇がない。このお方は命の光であり、万人にぬきんで、ことごとく麗しいお方であられる。(健康改革者 1877 年 10 月 1 日)

その日が地上で過ごす最後の日であるかのように、毎日を始めなさい。そして祈り続けて、その日の終わりにあたってわたしたちの努力と感化を祝してくださるように、神に求めることができるような方法で生きよう。……このお方はわたしたちに、心の最も深い渴望を満たす天来の賜物を与えられる。もしあなたが神のみ約束を主張し、それらを自分のものとすることによって、小さな子供としてこのお方のもとに来るならば、あなたは満ち溢れる喜びを受け、永遠の祝福をさきに味わうのである。(パイパー 1893 年 3 月 1 日)

研究 6

神の憐れみの最後の招き



「永遠の福音と新しい契約」

「警告のメッセージを伝えられたすべての人の働きは、イエスを掲げること」であることを見ました。では、どのようにイエスを掲げるのかー

「すなわち、型においてあらわされ、象徴のうちに影をうつし、預言者たちの啓示のうちに明らかにされ、み弟子たちに与えられた教訓や人の子らのためになされたすばらしい奇跡のうちに顕（あら）わにされたとおりに、このお方を世に提示することだからである」（ビュー・アノド・ハルト 1892 年 11 月 22 日）。

この働きについて、現代のわたしたちの特権が次のように述べられています。

「キリストを告白する現代の教会は、最高の特権に恵まれている。主は、ますます輝かしい光の中でわたしたちに啓示されている。わたしたちの特権は昔の神の民の特権よりはるかに大きい。わたしたちは、イスラエルに託された大きな光を持っているばかりではない。偉大な救いの確証がキリストを通していつそう明らかに与えられているのである。ユダヤ人にとって型であり象徴であったものが、わたしたちにとっては実体として与えられている。彼らには旧約の歴史があったが、わたしたちにはそれに加えて新約の歴史がある。わたしたちには来臨なさった救い主、十字架にかかり復活し、開かれたヨセフの墓に向かって『わたしはよみがえりであり、命である』と仰せになった救い主の確証がある」（キリストの実物教訓 296）。

「この大いなるみこころは型と象徴とをとおして予表されていた。キリストがご自分をモーセにあらわされたときの燃えるしばは神をあらわした。神をあらわすためにえらばれた象徴は、見たところ何の美しさもないつまらないやぶだった。ここに無限の神が宿られた。あわれみに富まれる神は、モーセが見ても生きられるように、その栄光をごくつまらない象徴の中におおいにかくされた。……」（各時代の希望上巻 6）。

「イエスは現世的な性質を持った引力によって人々をご自分の側にひきよせることがないようにと意図された。天の真理の美しさだけが、イエスに従おうと思う者をひきつけなければならない。メシヤの性格は長い間預言を通して予告されていたので、キリストは人々が神のみことばのあかしにもとづいてキリストを受け入れるようにお望みになった」(各時代の希望上巻29)。

この警告を受けた人々には、輝かしいキリストの啓示、すべての真理が与えられています。そこに現わされたとおりのキリスト、天の真理の美しさだけを掲げるために、どれほど忠実に聖書を研究する必要があることでしょう。

このキリストを伝え、神の義を啓示しているのが、永遠の福音です(ローマ1:3, 17 参照)。

この義は、完全に「神の義」でなければなりません。それ以外の義を頼みとする者は、「のろわれる」とあります(ガラテヤ3:10 参照)。

この神の義を与えるために神はご自分の民と契約を結ばれました。契約の内容は神の義であり、その契約を守ることが、神の義を受ける方法です。では、どのようにしてその契約を守ることができるでしょうか。以前、見たとおり、その契約においてわたしたちのなすべき分を正しく理解する必要があります。

「しかし、彼を受け入れた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである」(ヨハネ1:12)。

「もし人がこの大いなる祝福を正しく評価できるとすれば、それはその人にとってなんという利点であろう!彼には自分の魂を救う働きにおいて神との共労者となる特権が与えられる。受け入れ、信じることが、契約の彼のなすべき分である。…こうしてわたしたちは絶えず恵みの供給を受けるのである」(レビュー・アンド・ヘラルド 1900 年 4 月 24 日)

では、この契約を具体的に見ていきましょう。

「聖書には、永遠に不変の律法と、仮りの一時的の律法の二つの律法が示されているのと同様に、契約にも二種類ある。恵みの契約は、まず、エデンで人間に与えられたのである。人間が墮落したあとで、女のすえがへびのかしらを砕くという約束が与えられた。この契約は、すべての人に罪のゆるしを与え、キリストを信じる信仰によって、その後従うことができるように、神の恵みの助けを与えた。それは、また、神の律法に忠誠を尽くすことを条件にして、永遠の命を約束した。こうして、家長たちは、救いの希望を与えられたのである。この同じ契約は、

アブラハムにくり返されて、「地のもろもろの国民はあなたの子孫によって祝福を得るであろう」という約束が与えられた（創世記 22:18）。この約束はキリストを指示したものであった。アブラハムは、このことを理解し（ガラテヤ 3:6,16 参照）、キリストにたよって罪のゆるしを求めた」（人類のあけぼの上巻 439）。

「もう一つの契約は、聖書で「古い」契約と呼ばれているが、それは、シナイで神とイスラエルの間に結ばれたもので、それは、そのとき犠牲の血によって批准された。アブラハムに与えられた契約は、キリストの血によって批准され、「第二の」または、「新しい」契約と呼ばれている。それは、この契約に印を押す血が、第一の契約の血のあとに流されたからである」（人類のあけぼの上巻 440）。

ここに、新しい契約と古い契約が出てきますが、その違いは何でしょうか。

多くの場合、その区別が時期を表していると考えられていますが、実は、条件の違いこそ、この二つの契約を区別するものなのです。

エデンの時から存在していた恵みの契約は、キリストの血に批准されて「新しい」契約となりました。その新しい契約を見てみましょう。

新しい契約 – 神の約束を信じることに基づいている

創世記 22:18 また地のもろもろの国民はあなたの子孫によって祝福を得るであろう。あなたがわたしの言葉に従ったからである』。

創世記 15:6 アブラムは主を信じた。主はこれを彼の義と認められた。

アブラハムは自分のなすべき分をはたしました。すなわち彼は神の約束されたことを「信じ、受け入れ」たのです。

受け入れることが、すなわち信仰です。

創世記 15:6 は、アブラハムが「彼を受けいれ…すなわち、その名を信じ」、「神の子となる力を」受けた（ヨハネ 1:12）経験でした。

新しい契約はどのように存在するようになったのでしょうか。

「これは、初めて贖罪の知らせがかすかながら与えられたときから、神の約束によって存在していたのである」（人類のあけぼの上巻 440）。

そうです、新しい契約は神の約束を信じることに基づいているのです。

「アブラハムは神を信じた。それによって、彼は義と認められた」（ローマ 4:3）。

「この契約はアダムと取りかわされ、また、アブラハムにくり返して与えられたとはいえ、キリストの死によって初めて批准されたのである。これは、初めて贖罪の知らせがかすかながら与えられたときから、神の約束によって存在していたのである。人々は、これを信仰によって受け入れていた。しかし、それがキリストによって批准されたときに、それは新しい契約と呼ばれた。神の律法がこの契約の基礎であった。律法は、単に、神のみこころに人々をもう一度調和させ、彼らが神の律法に従うことができるようにする手段であつたに過ぎない。

…アブラハムに与えられた契約は、キリストの血によって批准され、「第二の」または、「新しい」契約と呼ばれている。それは、この契約に印を押す血が、第一の契約の血のあとに流されたからである。新しい契約が、アブラハムの時代に効力をもっていたことは、そのとき、神の約束と誓いによって保証されたことによって明らかである。『それは、偽ることのあり得ない神に立てられた二つの不変の事がらによって』である（ヘブル 6:18）」（人類のあけぼの上巻 440）。

『「新しい契約」は、『さらにまさった約束』によるもので、罪のゆるしの約束と、心を新たにする神の恵みと、神の律法の原則に心を一致させる約束によるのである。『しかし、それらの日の後にわたしがイスラエルの家に立てる契約はこれである。すなわちわたしは、わたしの律法を彼らのうちに置き、その心にしるす。……わたしは彼らの不義をゆるし、もはやその罪を思わない』（エレミヤ書 31:33,34）。石の板に刻まれたのと同じ律法が、聖霊によって心の板に書かれるのである。自分自身の義を確立させようと努力するかわりに、われわれは、キリストの義を受け入れる。』（人類のあけぼの上巻 442）。

一方、古い契約はどうでしょうか。

古い契約－人間の約束に信頼することに基づく

「それで、もしあなたがたが、まことにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るならば、あなたがたはすべての民にまさって、わたしの宝となるであろう。全地はわたしの所有だからである。あなたがたはわたしに対して祭司の国となり、また聖なる民となるであろう』。これがあなたのイスラエルの人々に語るべき言葉である」。それでモーセは行って民の長老たちを呼び、主が命じられたこれらの言葉を、すべてその前に述べたので、民はみな共に答えて言った、『われわれは主が言われたことを、みな行います』。モーセは民の言葉を主に告げた」（出エジプト記 19:5-8）。

「そして契約の書を取って、これを民に読み聞かせた。すると、彼らは答えて言った、「わたしたちは主が仰せられたことを皆、従順に行います」（出エジプト

記 24:7)。

古い契約は、民が「みな行います」が言ったその約束を守るかどうかにかかっていました。

「もう一つの契約は、聖書で「古い」契約と呼ばれているが、それは、シナイで神とイスラエルの間に結ばれたもので、それは、そのとき犠牲の血によって批准された。……

なぜ、シナイでもう一つの契約を結ぶ必要があったのであろうか。人々は、その奴隷時代に、神に関する知識と、アブラハムに与えられた契約の原則の大部分を忘れてしまっていた。神は、彼らをエジプトから救出し、神の力と恵みを彼らにあらわし、彼らが、神を愛し、信頼するようになることを望まれた。

…神の神聖さと、自分たちの心のはなはだしい罪深さと、自分たちの力だけでは、神の律法を守ることができないこと、そして、彼らには、救い主が必要であることを真に自覚していなかった。こうしたことを、すべて、彼らは学ばなければならなかった。神は、彼らをシナイに導き、ご自分の栄光をあらわされた。神は、彼らに律法を与え、服従することを条件にして、大きな祝福をお約束になった。『それで、もしあなたがたが、まことにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るならば、……あなたがたはわたしに対して祭司の国となり、また聖なる民となるであろう』(出エジプト記 19:5,6)。人々は、自分たちの心の罪深さと、キリストの助けがなくては神の律法を守ることができないことを自覚しなかった。そして、彼らは直ちに神と契約を結んでしまった。彼らは、自分たちの義を確立することができると感じて、『わたしたちは主が仰せられたことを皆、従順に行います』と宣言した(出エジプト記 24:7)。彼らは、恐るべき威光のうちに律法が宣言されるのを見、山の前で恐れおののいた。しかし、それにもかかわらず、その後わずか数週間しかたないうちに、彼らは神との契約を破り、偶像にひざまずいて礼拝したのである。彼らは、契約を破ってしまったために、神の恵みを受けることは望めなくなった。そして、今、自分たちの罪深さと、ゆるしの必要を認めた彼らは、アブラハムの契約にあらわされ、そして、犠牲のささげものによって示された救い主の必要を感じるようになった。彼らは今、信仰と愛によって、罪の奴隷からの救い主としての神に結びつけられた。こうしてこそ、彼らは新しい契約の祝福を感謝する用意ができたのである」(人類のあけぼの上巻 440-442)。

新しい契約は「神の約束」を信じることに基づいていましたが、彼らは神の約束の必要を自覚していませんでした。そこで自分の約束に信頼する古い契約を結びましたが、その約束はいかにもろかったことでしょう。そこではじめて自分たちの罪深さを悟り、救い主の必要を感じるようになりました。こうしてキリストの血

によって批准された契約を結ぶ準備ができたのです。

しかし、古い契約を結ばれたとき、はじめから守れない条件が与えられたのでしょうか。

「さて、モーセが神のもとに登ると、主は山から彼を呼んで言われた、「このように、ヤコブの家に言い、イスラエルの人々に告げなさい、『あなたがたは、わたしがエジプトびとにした事と、あなたがたを鷲の翼に載せてわたしの所にこさせたことを見た。それで、もしあなたがたが、まことにわたしの声に聞き従い (obey: 注意深く聞き)、わたしの契約を守る (keep: 大事にする cf. 創世記 2:15、ルカ 2:51) ならば、あなたがたはすべての民にまぎって、わたしの宝となるであろう。全地はわたしの所有だからである』」(出エジプト記 19:3-5)。

このお方が求めておられたのは、神の律法を注意深く聞き、それを大事にすることでした。契約を「守る」という言葉について、次のように記されています。

「主なる神は人を連れて行ってエデンの園に置き、これを耕させ、これを守らせられた」(創世記 2:15)。

「それからイエスは両親と一緒にナザレに下って行き、彼らにお仕えになった。母はこれらの事をみな心に留めていた」(ルカ 2:51)。

アダムたちもマリヤも神から与えられたものを大事に守りました。

しかし、人の約束は守ることができません。

「あなたのどんな約束も決心も、砂のなわのように弱く、自分では自分の思想、衝動、愛情を制することはできません。こうして約束を破り、誓いを裏切って自分の誠実さに自信がもてなくなり、神は自分を受け入れてくださらないのではないかと思うようになります」(キリストへの道 60)。

「わたしは、彼らが神に対して熱心であることはあかしするが、その熱心は深い知識によるものではない。なぜなら、彼らは神の義を知らないで、自分の義を立てようと努め、神の義に従わなかったからである。…」(ローマ 10:2,3)。

神の約束に基づいて、神の義をいただき(信じ)、これを大事に守ること、これが唯一の方法です。ですから、この神の義が、福音の核なのです。

「神は、このような無知の時代(神の義を知らなかった時)を、これまでは見過ごしにされていたが、今はどこにおる人でも、みな悔い改めなければならないことを命じておられる」(使徒行伝 17:30)。

彼らの間に争いがあったのでした。彼らはなお、キリストがまもなく王になられると考えていました。そして、各々彼らは、このお方の王国で最も高い地位につきたかったのです。ですから、彼らは互いに嫉妬(しつと)と怒った気持ちをいっていました。

問題の原因はほかにもありました。祭においてはしもべがお客の足を洗う習慣があり、そしてこの場合もその準備ができていました。足を洗うために、水差しも、たらいも、手ぬぐいも用意されていました。ところが、しもべがいなかったので、弟子たちがその役を果たす立場にありました。

しかし、弟子たちは各自、自分の兄弟のしもべにはなりたくないと思っていました。みずから彼らの足を洗おうとはしませんでした。そこで、沈黙のうちに彼らは自分たちの食卓についていました。

イエスさまは、しばらく彼らがどうするかを見ようと待っておられました。それから、このお方で自身が食卓から立ち上がられました。主はご自身にタオルを腰にまき、たらいに水を注ぎ、そして弟子たちの足を洗い始められました。このお方は彼らの争いによって深く悲しまれましたが、するどい言葉で彼らを非難なさいませんでした。このお方はご自身の弟子たちにたいしてもべとして行動することにより、ご自分の愛をお示しになりました。そして、終わられたときに、彼らにこう言われました。

「しかし、主であり、また教師であるわたしが、あなたがたの足を洗ったからには、あなたがたもまた、互に足を洗い合うべきである。わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしは手本を示したのだ」(ヨハネ 13:14, 15)。

この方法によってキリストは彼らにお互いに助け合うべきことをお教えになりました。自分自身のために高い地位を求める代わりに、めいめい自分の兄弟たちに喜んで仕えるべきなのです。

なすかご入り豆腐団子

■材料

なす	2 つ
豆腐	1/2 丁
ジャガイモ	1 つ
昆布だし	小さじ 1/2
塩	小さじ 1/2

■作り方

1. なすをタテに 6 枚、薄切りにします。
2. フライパンにオリーブオイルをしいて、なすがやわらかくなるまで両面を焼いて、二枚を十文字型においておきます。
3. ジャガイモを野菜カッターで極細切りにします。
4. ジャガイモに豆腐と調味料を加えて、フライパンで炒めます。
5. ジャガイモに火が通り、まとまってきたら 6 等分し、十文字型においてあるなすの真ん中にひとつずつおいていきます。
6. なすで豆腐を包むようにして上で重ね、そこを楊枝で留めます。
7. お皿に盛って、できあがりです。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



イエスの物語

第31話

過ぎ越しの夕食にて(II)

ユダヤ人たちがキリストを殺すことによってこのお方を決定的に拒絶したとき、彼らはこの祭に与えられた価値と意義をすべて拒絶したのです。今後、彼らがそれらを遵守(じゅんしゅ)することは無価値な形式でした。

キリストは過越(すぎこし)の儀式に参加なさったとき、このお方の思いの前にはご自分の最後の大いなる犠牲の場面がありました。このお方はいまや十字架の影のもとにおられ、その心は痛み苦しんでおられました。このお方はご自分を待ちうけている苦悩をことごとくご存じでした。

このお方は、ご自分が救うために来られた人たちによって示される忘恩と残酷さをご存じでした。しかし、このお方が考えておられたのは、ご自身の苦しみではありませんでした。このお方は自分たちの救い主を拒み、永遠の命を失ってしまう人々をあわれまれました。

そしてこのお方の心の中ではご自分の弟子たちへの思いが一番大きいのです。このお方はご自分の苦しみが終わった後、彼らがこの世で戦うために残されることをご存じでした。

このお方には、ご自分がもはや彼らと共に歩まなくなったときに彼らの心に支えとなるように、彼らに言うべきことが多くありました。これらのことについて、このお方はご自分の死を前にした最後の集会で話したいと

望んでおられました。



しかし、このお方はいま、彼らにお語りになることができませんでした。このお方は彼らが聞く準備ができていないのをごらんになりました。

(45 ページに続く)